

平成25年度

集約型都市形成のための計画的な緑地環境形成実証調査

「農」をテーマとした都市型観光資源と連携したまちづくり特性分析調査

報告書

平成26年3月

国土交通省都市局

目次

| | |
|-------------------------------------------------------------------|----|
| ■序章「立川市都市と農業が共生するまちづくりモデルプラン」と 「集約型都市形成のための計画的な緑地環境形成調査」 | 1 |
| 第1節「立川市都市と農業が共生するまちづくりモデルプラン」 | 2 |
| (1) プラン策定の背景 | |
| (2) プランの概要 | |
| (3) ファーマーズセンターみののれ立川開設の経緯 | |
| 第2節「集約型都市形成のための計画的な緑地環境形成実証調査」の活用 | 6 |
| (1) 緑地・農地の保全・活用によるみどりと調和したまちづくりに関する課題 | |
| (2) 緑地・農地の保全・活用によるみどりと調和したまちづくりに関する方針 | |
| (3) 緑地・農地の保全・活用によるみどりと調和したまちづくりに関する取組み | |
| | |
| ■第1章 本調査の目的と検討の流れ | 8 |
| (1) 本調査の目的 | |
| (2) 調査検討の流れ | |
| | |
| ■第2章 「農」をテーマとした都市型観光資源と連携したまちづくり方策の検討 | 10 |
| (1) ワークショップ概要 | |
| (2) ワークショップ検討結果 | |
| (3) シンポジウム概要 | |
| (4) 体験イベント概要 | |
| | |
| ■第3章 アンケート調査 | 17 |
| 第1節 <u>ファーマーズセンターみののれ立川利用者へのインタビュー調査</u> | |
| (1) 調査目的 | |
| (2) 調査対象・期間・回収状況 | |
| (3) 設問内容 | |
| (4) 集計結果 | |
| (5) まとめ | |
| 第2節 <u>周知・啓発イベント参加者へのアンケート調査</u> | |
| (1) 調査目的 | |
| (2) 調査対象・期間・回収状況 | |
| (3) 設問内容 | |
| (4) 集計結果 | |
| (5) まとめ | |

第3節 農のあるまちづくりシンポジウム参加者へのアンケート調査

- (1) 調査目的
- (2) 調査対象・期間・回収状況
- (3) 設問内容
- (4) 集計結果
- (5) まとめ

■終章 調査結果と今後の課題・展望.....62

- (1) 農のあるまちづくりにおける拠点施設の問題点
- (2) 農のあるまちづくりにおける拠点施設の課題と今後の展開

■概要資料.....66

【序章】

**「立川市都市と農業が共生するまちづくりモデルプラン」と
「集約型都市形成のための計画的な緑地環境形成調査」**

第1節「立川市都市と農業が共生するまちづくりモデルプラン」

(1) プラン策定の背景

立川市は、多摩の中心に位置し、広域多摩の中核都市として多様な産業集積が進んでいる。JR立川駅を中心に利便性が高く繁華で集客力に優れた商業都市というイメージがあるが、北部地域では住宅地に農地が広がり、五日市街道を中心に植木、野菜、果樹、花き、畜産など多様な農畜産物が生産されている。

しかし、都市農業を取り巻く環境変化のスピードは速く、市街化や相続による農地の減少、後継者不足による農家数や農業就業人口等の減少が進んでいる。

都市農業は、市民に安全・安心な食料を供給するだけでなく、みどりと潤いのある住環境の形成、地域住民の交流、さらに災害時の避難場所など多様な役割を担っているが、現在の都市計画制度では市街化区域における農地保全への配慮はまだ不十分であり、まちづくりと農業政策の谷間におかれた状態である。

野菜や植木などの畑が多く残る緑豊かな環境は市民にとって貴重な財産であるため、市民の農業に対する理解を深め、都市農地の保全を推進するとともに、都市と農業の調和の取れた住みよいまちづくりが求められている。

そこで、農業が立川市の大きな魅力であることをあらためて共通認識として位置づけ、立川市第3次農業振興計画に掲げる「都市と農業が共生する魅力的なまち」の実現を目指し『立川市都市と農業が共生するまちづくりモデルプラン』が策定された。

農業者と市民、行政等が協力し、農業・農地の持つ多面的機能を活かしたプラン実現に向けた取り組みを推進している。

(2) プランの概要

プランの基本的取組は以下のとおりである。

| 第三次農業振興計画 | 基本的取組み | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1. 都市農業の経営基盤強化や人材の育成・確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な産業の連携による消費拡大や特産品等の開発 ・ファーマーズセンター等の販売拠点の確保 ・持続可能な農業経営のための人材の育成・確保 ・生産力の向上と農業経営ビジョンの策定支援 <p>2. 環境・景観を形成する農地の保全と機能強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市と農業が共生するまちづくりモデルプランの策定と事業の推進 ・みどり環境の保全とみどり豊かなまちづくり ・様々な都市農地保全策の研究・実施・推進 <p>3. 市民との連携による「地産地消」や「食育」「緑育」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や地域における「食育」「緑育」の意識を高め、地域の農業や緑環境への理解を深める ・多様な市民参加による農のあるまちづくりの推進 | <p>①みどり環境の保全とみどり豊かな農のあるまちづくり</p> | <p>農業・農地の多面的機能を広く市民に周知するために、ワークショップ・講演会等のPR活動を行う</p> <p>防災協定の締結など、農地の防災空間機能としての活用や周知を進める</p> <p>農地や地産地消の持つCO₂削減効果等をPRし、環境貢献に対する認識を高める</p> |
| | <p>②学校や地域との連携による「食育」「緑育」の推進</p> | <p>学校や幼稚園、保育園、子ども会などと協力して、農業や食・みどりや環境に関する体験学習を実施する</p> <p>親子で参加する収穫体験や農業体験、緑育体験、料理教室等を実施する環境を整え、拠点的施設の整備を図る</p> |
| | <p>③多様な市民参加による農あるまちづくりの推進</p> | <p>市民のニーズにこたえる体験型市民農園を支援する</p> <p>援農ボランティアなど、農業への市民の参加を促進する</p> <p>市民が農に参加する活動の場や機会を拡大する</p> |
| | <p>④市民との連携による「地産地消」システムづくりの推進</p> | <p>市民が参加して「地産地消」を促進し、消費者と農業者の取り組み実施を支援する</p> <p>学校や公共施設における立川産農産物や植木、花等の活用を進める</p> |
| | <p>⑤多様な産業との連携による立川農業の販売・情報発信・交流拠点の形成</p> | <p>市民・利用者が楽しみながら生産者と交流し、立川農産物等との出会い・触れ合いを行える情報発信機能を持った中核的拠点づくりを進める（ファーマーズセンター等）</p> <p>地域毎の拠点的施設の整備を図る</p> <p>市報やHP等を活用し情報発信に係る仕組みを構築する</p> |
| | <p>⑥多様な産業の連携による観光資源や特産品等の開発</p> | <p>消費者や商業者と連携して、地元農産物等を利用した特産品開発（東京うど等の利用）などの取組みを支援する</p> <p>農商工観連携等により、農業や地域資源を活かした企画や観光ルート開発などの取組みを支援する</p> <p>観光協会等と連携して、食・緑に関する情報発信を行う</p> |

3つの施策の柱を踏まえて、基本的取組みを構築

(3) ファーマーズセンターみののーれ立川 開設の経緯

立川市は、「立川市第三次農業計画」ならびに「立川市都市と農業が共生するまちづくりモデルプラン」に整備が計画づけられていた立川農業の中核的拠点施設として、平成25年5月にファーマーズセンターみののーれ立川を開設した。

尚、本モデルプランは地域特性を踏まえて地域毎に以下のような展開テーマを定めており、ファーマーズセンターみののーれ立川は「立川農業を発信する」をテーマとした中央地域に開設された。中央地域の特性としては、交通アクセスに優れていること、公共サービス機能が集積していること、市内外から人が集まること、農地がほとんど見られないこと等が挙げられる。

都市と農業が共生するまちづくりの地域テーマと展開イメージ

| | 北部西地域 | 北部中地域 | 北部東地域 | 中央地域 | 南地域 |
|-------------------------|-------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| 都市と農業が共生するまちづくりのテーマ・方向性 | 農業を実践する 一般市民が様々な農業体験を通じて、農地・農業への理解を深めるまちづくり | 農風景に触れる 地域資源・文化との関連性を深め、農の原風景を感じるまちづくり | 農ある環境を楽しむ 農地・農業のレクリエーション機能を活かし、農的環境を楽しむまちづくり | 立川農業を発信する 立川農業の良さや楽しみ方を発信する中核的施設（ファーマーズセンター等）づくり | 農と自然と歴史を学ぶ 拠点施設と連携して、農業、自然、歴史を知るまちづくり |

■都市と農業が共生するまちづくりモデルプラン展開イメージ



(図11)

開設に至るまでは、農業者やJ A、直売所専門家、行政で構成される「(仮称)立川市ファーマーズセンター開設準備協議会」を設置し、約2年に渡り検討を重ねた。

こうして開設されたファーマーズセンターみののれ立川は、市内で生産された農畜産物や加工品、特産品の販売だけではなく、立川情報の発信や市民交流の場としての機能も備えた多機能施設として位置づけられており、まちづくり資源としての利活用を大きく期待されている。

【写真①みののれ立川・外観】



【写真②みののれ立川店舗内】



【写真③みののれ立川・北側広場】



【写真④屋外花卉販売スペース】



<施設概要>

所在地：〒190-0031 東京都立川市砂川町2-1-5

TEL：042-538-7227

営業時間：4月～10月 10時～18時

11月～3月 10時～17時

休業日：12月31日～1月4日・毎週水曜日

駐車場：86台

駐輪場：26台

第2節「集約型都市形成のための計画的な緑地環境形成実証調査」の活用

(1) 緑地・農地の保全・活用によるみどりと調和したまちづくりに関する課題

立川市の農業の現状は「多摩の農業統計（平成20年3月）」によると、農家数388戸、耕地面積339ha、農業従事者711人で、年々、経営耕作面積の減少、農家数や農業就業人口等の減少が進んでいる。これら農業を取り巻く厳しい状況の中、都市農業は市民に安全・安心な食料を供給するだけでなく、みどりと潤いのある住環境の形成、地域住民の交流、さらに災害時の避難場所など、様々な役割を担っている。野菜や植木などの畑が多く残る緑豊かな環境は、すべての市民にとって貴重な財産と位置づけ、市民の農業に対する理解を深め、都市農地の保全を推進するとともに、都市と農業の調和の取れた住みよいまちづくりが求められている。そのためには、市民等に都市農業への理解を深めてもらうための周知・啓発の取組や、市民参加型の事業の実施、さらに都市農業振興につながる拠点づくりが必要となる。

また、緑を取り巻く課題については、環境保全、レクリエーション、防災、景観などの機能別の視点に加え、緑地や樹林地、公園緑地の整備等の「拠点」の緑、玉川上水や五日市街道のケヤキ並木の保全等の「軸線」の緑、緑豊かな街並みの形成などの「面」の緑などの構造的な視点、さらに地区別の視点などの課題について対応が求められているが、相続等による緑地空間の減少や地権者との合意形成、用地買収に係る財政負担など課題がある。

このように、本市は立川駅周辺を中心市街地に都市機能が集約される一方、ファーマーズセンターみのれ立川の周辺地域においては、市民等と協働して農地や緑地の保全を推進し、比較的低密度な住宅地の形成等を図っていく必要がある。

(2) 緑地・農地の保全・活用によるみどりと調和したまちづくりに関する方針

立川市は、耕地面積で多摩地域5位、生産緑地面積で同3位、総農家数で同4位、300万以上の販売規模がある農家数では3位（いずれも2000年世界農林業センサス東京都統計書・農業編（農林水産省統計情報部））となっており、多摩地域有数の農業地域である。このような地域特性を踏まえ、本市の農業振興については、平成22年6月に策定した「立川市第3次基本計画」では、受注販売体制や流通体制のネットワーク化、農業・商業・工業・観光の連携による消費拡大や特産品等の開発、地産地消の推進に取り組むため、ファーマーズセンター設置の具体化を図ると示している。他にも、都市と農業の共生をテーマに、新たな立川農業の方向性を示すことを目的に平成23年3月に策定した「立川市都市と農業が共生するまちづくりモデルプラン」では、立川情報の発信、市民との交流の場づくりなど、多面的機能をもつ（仮称）ファーマーズセンターの開設について示しているほか、「新庁舎周辺地域土地利用計画」（平成21年12月策定）では、まちづくりの目標として、「地産地消等、都市農業の振興に寄与するまちづくり」と位置づけている。

また、立川市では平成11年3月に「立川市緑の基本計画」を策定している。これは、今後の緑地の保全と緑化の推進に関する事業の指針を示すと共に、その内容を市民にわかりやすく公表することを目的としており、方針の柱を、「人」をつなぐ、「時」をつなぐ、「緑」をつなぐ、と定め、広域的な緑の核であり立川の緑の中心に位置付ける国営昭和記念公園を拠点とし、玉川上水、残堀川、多摩川を軸に市民と一体になって緑を育て、オープンスペースの有効活用を図る方向性を示している。計画の目標では、緑地の確保目標水準を市域面積の約30%、公園の確保目標水準を市民一人当たり16.5㎡としている。

(3) 緑地・農地の保全・活用によるみどりと調和したまちづくりに関する取組み

都市農業については、平成 22 年度に農業関係団体や商工関係団体、公募市民、関係行政機関等で構成する「立川市都市と農業が共生するまちづくり協議会」を設置し、「立川市都市と農業が共生するまちづくりモデルプラン」並びに「立川市都市と農業が共生するまちづくり推進事業実施計画」を策定し、ファーマーズセンターみのれ立川の開設に向けた協議を進めたほか、市民や関係機関の協力を得て、住宅地の中に点在する農地のオープンスペースの特性を活かした防災協力農地への看板設置、農の風景を観光資源のひとつと捉え、新たな観光まちづくりの一環として「農ウォークイベント」を開催するなど、市民参画・参加型の事業に取り組んだ。

緑環境の創出や整備については、本市は近年の公園整備にあたって、市民の意見を反映させた公園づくりを行うべく、基本計画策定時にワークショップを行っている。

具体事例として、平成 24 年度に整備した富士見公園は総合公園であったため、立川市民全員を対象とし、平成 23 年度に市民公募したワークショップメンバー、市、市委託のコンサルタントの 3 者で基本計画を策定した。ワークショップで策定した基本計画案は議会・パブリックコメントを経て正式に基本計画となり、平成 25 年 3 月に供用開始した。また、立川公園の拡張工事でも、市民を対象にワークショップメンバーを募集するとともに、近隣の小学校の協力を得て、授業時間の中で児童の意見を取り入れる機会を設けた。策定した基本計画案は議会・パブリックコメントを通じて正式に決定し、平成 20 年度に整備工事を行った。

【第1章】

本調査の目的と検討の流れ

(1) 本調査の目的

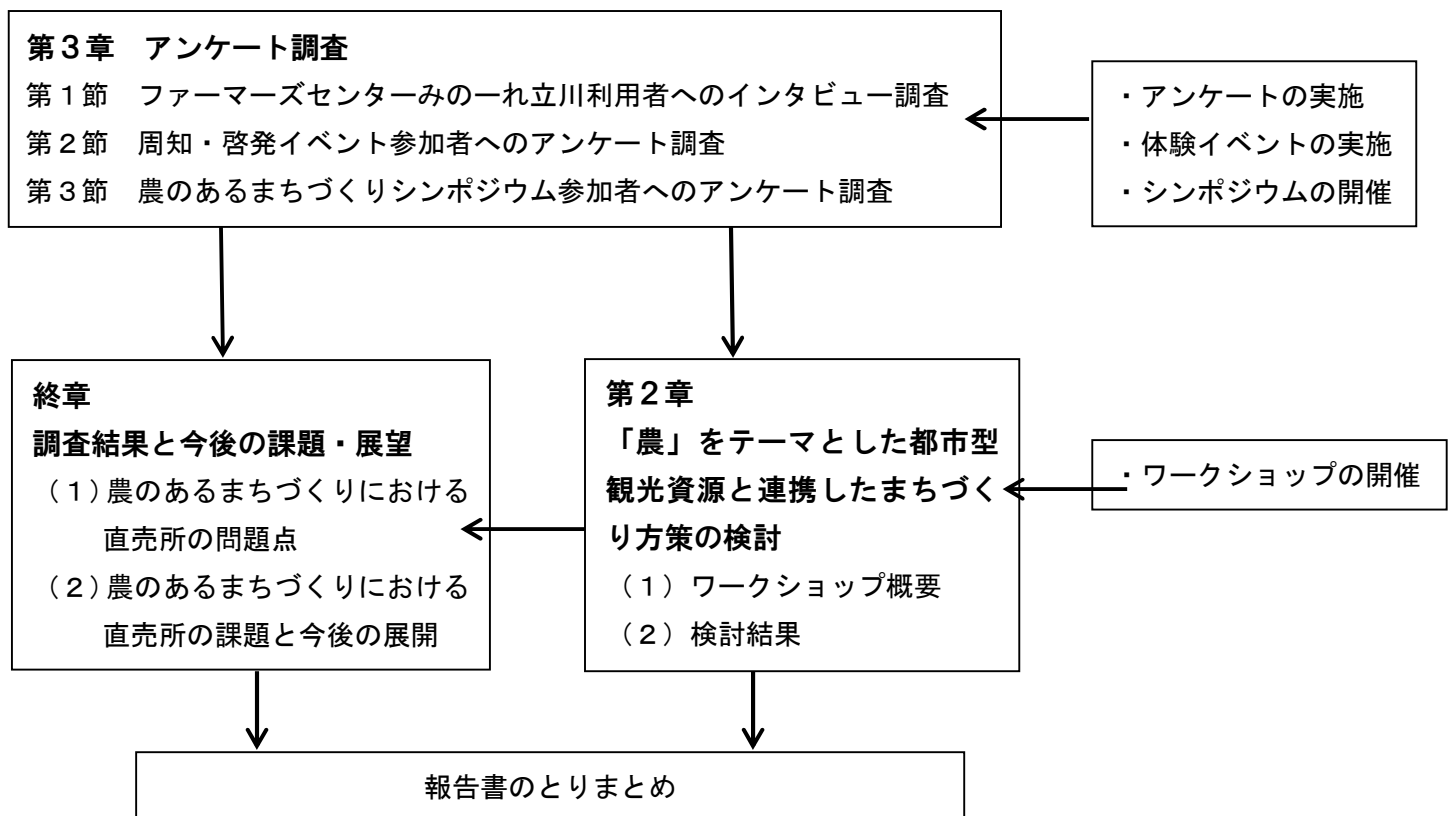
立川市は、平成 25 年 5 月 23 日、市内で生産された農産物や特産品の提供、さらに立川情報の発信や市民交流の場などの複合機能をもった「ファーマーズセンター みのーれ立川」を開設した。

本施設は、「立川市第 3 次農業振興計画」や「立川市都市と農業が共生するまちづくりモデルプラン」に基づく施策で、開設目的として、農地保全の推進、地産地消の推進、農業生産力の向上、農・商・工・観連携の推進、みどり豊かな都市イメージの向上、市民交流の場づくりの 6 つの柱を掲げている。

施設の開設場所は国営昭和記念公園北側の国有地約 1 ヘクタールで、市が財務省より借用し、「新庁舎周辺地域土地利用計画」に基づき具体的な事業計画を策定するまでの間、社会実験として暫定的に実施するものである。

本施設は、特に、開設目的の農・商・工・観連携の推進やみどり豊かな都市イメージの向上、市民交流の場づくりの実現に向けた検証が重要と捉えることから、至近に位置する本市最大の都市型観光資源である国営昭和記念公園などの周辺施設と連携し、来街者・観光客の回遊動態の把握や農地保全への効果分析等を踏まえ、新たな回遊化方策等を抽出する。さらには、ワークショップ等、市民主体の企画や参加機会を通じて、「農地・緑地の保全」や「オープンスペースの有効な土地利用」などをテーマとする講演会やシンポジウム、地産地消を実践する体験イベントを開催し、これらの取組により、市民の地産地消への理解や意識の醸成が深まるとともに、農業者の生産意欲の向上や経営力の向上が図られ、市内全域における農地保全の推進が期待される。あわせて、公園機能や緑地機能を有するオープンスペースの利活用については、市民参加・市民参画型の事業を実施し検証することにより、本地域におけるまちづくりの特性を把握する。

(2) 調査検討の流れ



【第2章】

「農」をテーマとした都市型観光資源と連携した まちづくり方策の検討

(1) ワークショップ概要

■テーマ：農のあるまちづくり資源としてのみの一れ立川の利活用方策

■検討方法：SWOT分析法

■参加者：8名

青木 隆夫 ((有)ベネット代表取締役・全国直売所研究会事務局長)

金子波留之 (みの一れ立川運営員会会長・生産者)

桂 誠 (みの一れ立川店長・JA東京みどり)

上原 恵子 (市民代表)

磯部 淳 (国営昭和記念公園管理センター・企画運営チームスタッフ)

小澤 郁夫 (立川市 産業文化部産業振興課農業振興係・係長)

一宮 友美 (立川市 産業文化部産業振興課農業振興係・主事)

高野 林人 (立川市 産業文化部産業振興課農業振興係・主事)

■実施日：平成26年2月27日(木)10時～正午

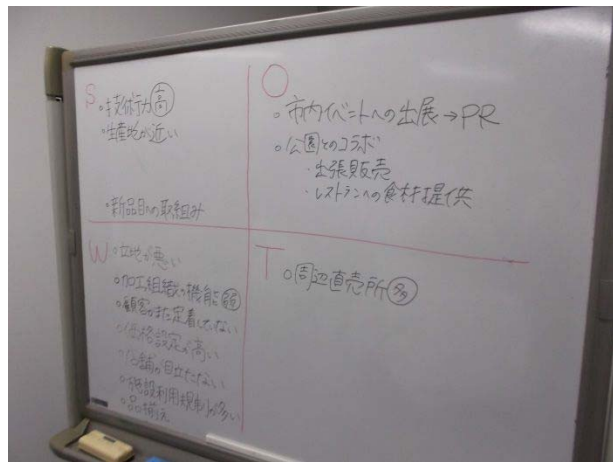
平成26年3月6日(木)10時～正午

■場所：立川市役所2階会議室

【写真⑤ワークショップの様子(i)】



【写真⑥ワークショップの様子(ii)】



(2) ワークショップ検討結果

<SWOT 分析>

| 内部要因 | 外部要因 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>S (強み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パートさんが積極的。 ・産地が近いので、野菜が新鮮。野菜は A 品のみ店頭で並ぶので、品質がとても良い。 ・消費者が生産者を選べる。 ・出荷者になるために入会金があるため、やる気のある出荷者が集まっている。 ・出荷者の部会が、立川市内の生産組合とほぼ一致しており、部会がしっかりしている。 ・都内から来店する固定客がいる。 | <p>O (機会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口が多い。 ・都会であり、IT 技術に関心がある。 ・市民の農地に関する関心興味が高い。 ・うど、ブロッコリー、植木の生産が都内一。 ・後継者が多い。 ・生產品目の違う相手との交流の機会がある。 ・多くの人を訪れる昭和記念公園がある。 |
| <p>W (弱み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拠点としての機能が薄い。 ・手続きやニーズの対応、反映まで時間がかかる。 ・多目的スペース、北側広場の利活用が低い。 ・加工施設・飲食スペースがない。 ・イベントがただの安売りになっている。 ・〇〇教室のような知識を売りにするイベントがない。 ・効果的に広告宣伝ができていない。 ・農家の顔写真があまりない。 ・ポイントカードがない。 | <p>T (脅威)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭島の市場が閉鎖した。 ・東京で 40 年ぶりの大雪。 ・周辺に個人直売所が多い。 ・周りの個人直売所やスーパーのほうが安い時がある。 ・シャイな農家さんが多い。(畑では雄弁) ・うどの調理方法がわからない市民が多い。 ・市内のスーパーに地場野菜コーナーがある。 |

自由意見

<農業者・JA>

- ・直売所・加工施設・飲食スペースの3点セットが必要。
- ・〇〇教室のような知識を売りにするイベントが必要
- ・女性層をターゲットに効果的に広告宣伝をうつ必要がある。
- ・農家の顔写真を掲示したり、QRコードを使用したい。
- ・手続きの簡略化で多目的スペース、北側広場の利活用。
- ・北側広場に農園を開設するが、体験型農園主に運営してもらってはどうか。
- ・市民による加工施設を検討してはどうか。(野菜の売れ残りに対応)
- ・畑の見学会などのイベントを行いたい。
- ・めずらしい野菜を作っても多く売れるわけではないので、むずかしい。
- ・今は市場出荷の基準を参考に野菜1袋(束)の量を決めている。1袋(束)の量を減らして、数を増やすと農家の手間が増える。
- ・規制が多く、思うように展開できていない。
- ・直売所出荷の農業になれていない農家が多く、直売所出荷に慣れ、荷の量や種類が充実するのは時間がかかる。
- ・価格はなるべく変えないようにやっている。そのため周りのスーパーや直売所は価格が上下するので、相対的に価格が安いときと高いときがある。
- ・「〇〇さんのはないの?」と生産者にファン(固定客)が出来始めている。

<消費者>

- ・スーパーの野菜は3日しかもたないが、みの一れの野菜は5日はもつ。それだけ鮮度はいい。
- ・消費者はまだ生産者よりも見た目を基準に購入している人が多い。
- ・野菜の大きさがバラバラで不思議に思う。野菜のサイズ(L、2Lなど)を表記して消費者にもわかるようにしてもらいたい。
- ・野菜以外の観光推奨認定品(まんじゅう)などが他で売っているのと同じ価格である。せっかく市の施設で売られているものなので価格を下げしてほしい。
- ・他のスーパーや直売所で売っている野菜はみの一れにあってほしい。
- ・めずらしい野菜があるとうれしい。
- ・消費者との話し合いの場をもうけてほしい(婦人モニターなど)。
- ・量の少ない野菜があると使いやすい(小ロット)。
- ・オリジナルレシピなどがあるとおもしろいのではないか。

<まとめ>

今回のワークショップでは、ファーマーズセンターみの一れ立川の現状の把握と、農業者と消費者間での認識のズレなどを再確認することができた。まだみの一れ立川はスタートしたばかりであり、課題が多く残っている。今回のワークショップの内容を活かし、農業者、消費者の憩いの場としてみの一れ立川を成長させていくことが重要である。そして市民にとっての重要施設となることで、みの一れ立川を軸とした農業者と消費者を結ぶまちづくりが一層に進んでいく。

(3) シンポジウム概要

- テーマ：農のあるまちづくりシンポジウム
～ファーマーズセンターみののれ立川にできること～
- 目的：農・商・工・観連携及び立川情報発信の拠点であるみののれ立川のまちづくり資源としての役割や展望を考える。
- 日時：平成26年2月22日（土）午後1時～3時
- 場所：国営昭和記念公園 みどりの文化ゾーン 花みどり文化センター内 講義室

【第1部：講演会】

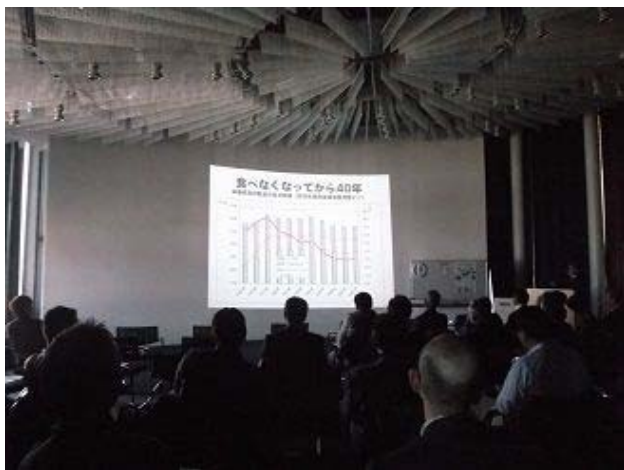
- テーマ：農のあるまちづくり資源としてのみののれ立川
- 講演者：青木 隆夫
(有)ベネット代表取締役
全国直売所研究会事務局長
茨城大学 非常勤講師

【第2部：パネルディスカッション】

- テーマ：みののれ立川にできること～まちづくりにおける役割と展望～
- コーディネーター：青木隆夫氏
- パネリスト：
金子波留之（みののれ立川運営員会会長・生産者）
桂 誠（みののれ立川店長・JA東京みどり）
岩崎 太郎（立川観光協会・副会長）
富所 弘充（国営昭和記念公園事務所・調査設計課長）
新海 きよみ（立川市・産業文化部長）

【写真⑦講演会の様子】

【写真⑧パネルディスカッションの様子】



■ シンポジウムによる検討結果

・ 観光資源としての多角的なPRの必要性

ex.) 農産物の市内商工業者による加工等の推進→特産品の創出
ネット媒体でのPR強化→来街者を呼び込む

・ 立川農業に関する周知・啓発機会の創出

ex.) 農業体験機能の充実→体験農園整備(施設北側広場)
周辺飲食施設とのコラボレーション→地産地消の推進
⇒「立川農業=まちの魅力」であることを発信する機能の充実が課題である。

(4) 体験イベント概要

【農ウォーク】

■概要・目的

市内外からの参加者が立川市内の農地と観光スポットをめぐるウォーキングイベント。コース内の見どころスポットでは、農業者や観光案内ボランティアによる詳しいガイドがなされるほか、農地での採れたて農産物の試食等も実施する。ファーマーズセンターみののーれ立川や国営昭和記念公園内のこもれびの里にも立ち寄り、多様な立川の緑と農を体感し、その魅力を発見することを目的とする。

■日時：平成25年11月17日（日）午前9時～午後1時

■参加者：20名

■ウォーキングコース

武蔵砂川駅 ⇒ 見影橋 ⇒ 金比羅山 ⇒ 流泉寺 ⇒ オープンギャラリー蔵の美楽館
(キウイフルーツの収穫体験)
⇒ ファーマーズセンターみののーれ立川 ⇒ 国営昭和記念公園こもれびの里

【写真⑧みののーれ立川にて植木農家によるお話】



【写真⑨国営昭和記念公園こもれびの里】



【第3章】

アンケート調査

第1節 ファーマーズセンターみのれ立川利用者へのインタビュー調査

(1) 調査目的

ファーマーズセンターみのれ立川の利用者ニーズを把握するとともに、周辺施設との回遊実態を把握し、施設の集客につながる回遊方策の検討、及び都市型観光資源としてまちづくりへの活用方策の検討に繋げる。

(2) 調査対象・期間・回収状況

①調査対象

ファーマーズセンターみのれ立川の利用者で、買い物等を終えて出てきたお客様を対象とする。

②期間・回収状況

アンケートを実施した日程ごとの回収数は以下の通りである。

| 日程 | | 回収数 |
|-----------|-------------|------|
| 11月17日(日) | 10:00~15:00 | 178票 |
| 11月22日(金) | 10:00~13:00 | 33票 |
| 11月23日(祝) | 10:00~13:00 | 93票 |
| 合計 | | 304票 |

(3) 設問内容

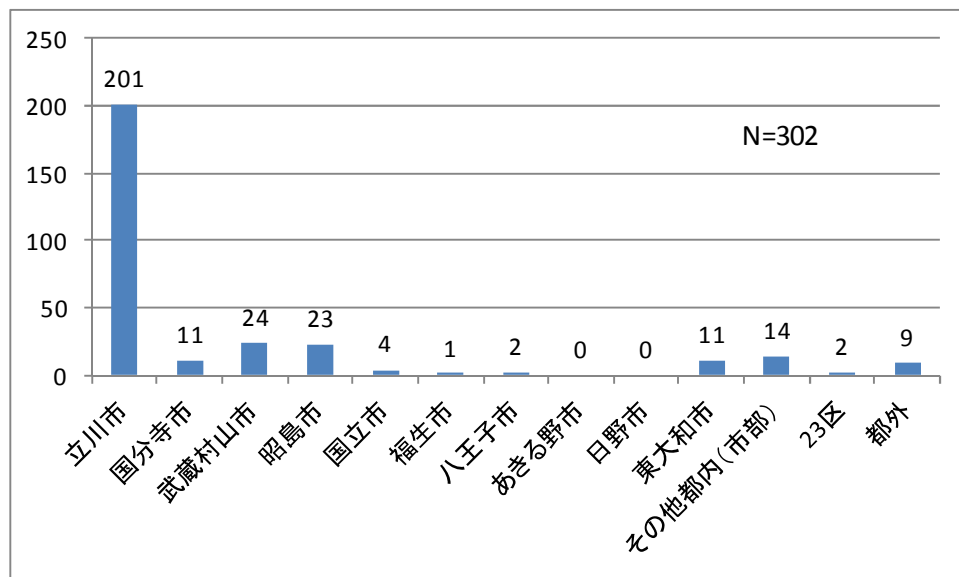
問1 お住まいの地域
問2 来館の交通手段
問3 来店人数・同行者
問4 施設の利用頻度
問5 施設の認知手段
問6 年齢階層
問7 性別
問8 来館の目的
問9 施設の滞在時間
問10 施設の満足度
問11 満足・不満の理由
問12 今後充実してほしいもの
問13 みのれ立川に来る前に立ち寄った施設

問14 みのれ立川を出た後に立ち寄る施設(予定)
問15 みのれ立川周辺で利用したことのある施設
問16 国営昭和記念公園の利用頻度
問17 農業体験への関心の有無
問18 参加してみたい農業体験
問19 地元野菜を選択する理由
問20 立川市の農地の残存意向
問21 立川市の農業・農地に期待する機能・役割

(4) 集計結果

問1 お住まいの地域

- ・みのーれ立川へは、67%が立川市内から訪れている。
- ・周辺市の中では、武蔵村山市、昭島市、東大和市、国分寺市からが多く、その他の都市としては小平市や埼玉県西部（入間市、所沢市、川越市）などが見られる。



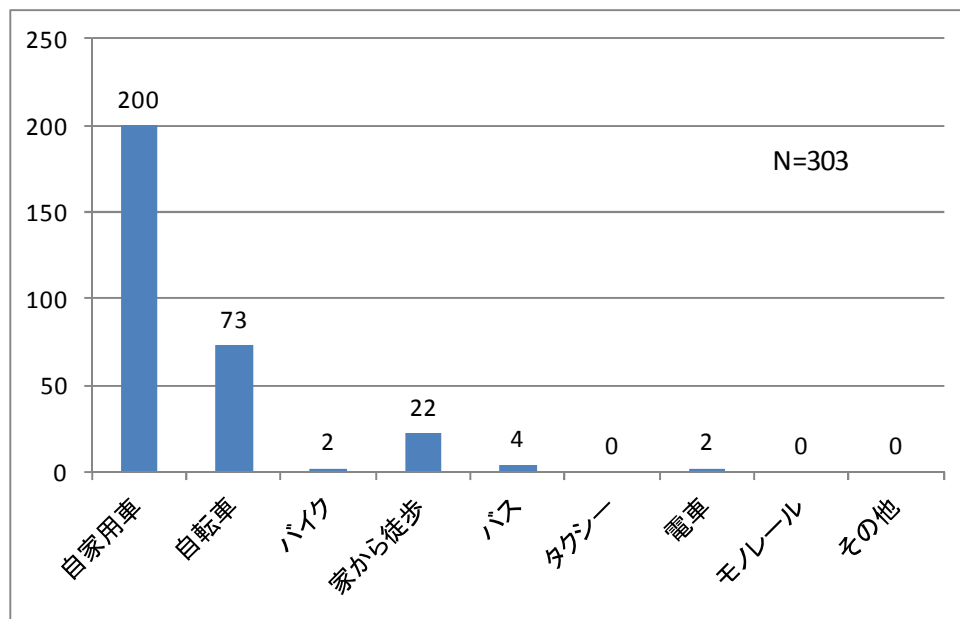
| 立川市 | 国分寺市 | 武蔵村山市 | 昭島市 | 国立市 | 福生市 | 八王子市 | あきる野市 | 日野市 | 東大和市 | その他都内(市部) | 23区 | 都外 | 合計 |
|-------|------|-------|------|------|------|------|-------|------|------|-----------|------|------|--------|
| 201 | 11 | 24 | 23 | 4 | 1 | 2 | 0 | 0 | 11 | 14 | 2 | 9 | 302 |
| 66.6% | 3.6% | 7.9% | 7.6% | 1.3% | 0.3% | 0.7% | 0.0% | 0.0% | 3.6% | 4.6% | 0.7% | 3.0% | 100.0% |

その他の回答

| 回答 | 票数 |
|------|----|
| 渋谷区 | 1 |
| 江戸川区 | 1 |
| 小平市 | 8 |
| 瑞穂町 | 1 |
| 西東京市 | 1 |
| 東村山市 | 3 |
| 武蔵野市 | 1 |
| さやま市 | 2 |
| 狭山市 | 1 |
| 入間市 | 2 |
| 所沢市 | 1 |
| 川越市 | 1 |
| 川口市 | 2 |
| 相模原市 | 1 |
| いわき市 | 1 |
| 総計 | 27 |

問2 来店の交通手段

- ・来店の交通手段は、自家用車が66.0%と最も多く、次いで自転車、徒歩で来店している状況である。

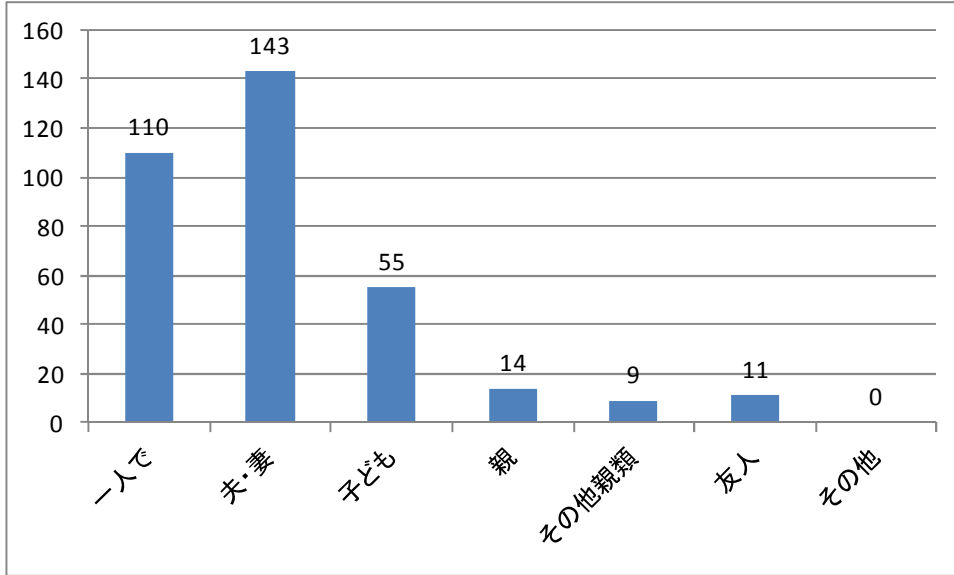


| 自家用車 | 自転車 | バイク | 家から徒歩 | バス | タクシー | 電車 | モノレール | その他 | 合計 |
|-------|-------|------|-------|------|------|------|-------|------|--------|
| 200 | 73 | 2 | 22 | 4 | 0 | 2 | 0 | 0 | 303 |
| 66.0% | 24.1% | 0.7% | 7.3% | 1.3% | 0.0% | 0.7% | 0.0% | 0.0% | 100.0% |

問3 誰と何人できたか

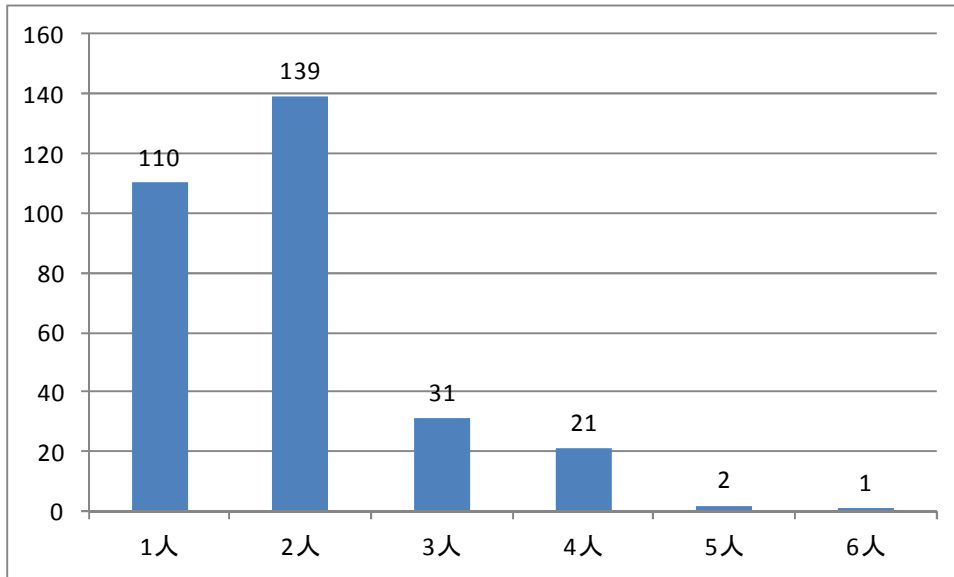
- ・来店者の41.8%が夫婦で、32.2%が一人で来店している。
- ・来店人数を見ると、一人が36.2%、二人が45.7%と、8割以上が1~2人少数での来店となっている。

(だれと)



| 一人で | 夫・妻 | 子ども | 親 | その他親類 | 友人 | その他 | 合計 |
|-------|-------|-------|------|-------|------|------|--------|
| 110 | 143 | 55 | 14 | 9 | 11 | 0 | 342 |
| 32.2% | 41.8% | 16.1% | 4.1% | 2.6% | 3.2% | 0.0% | 100.0% |

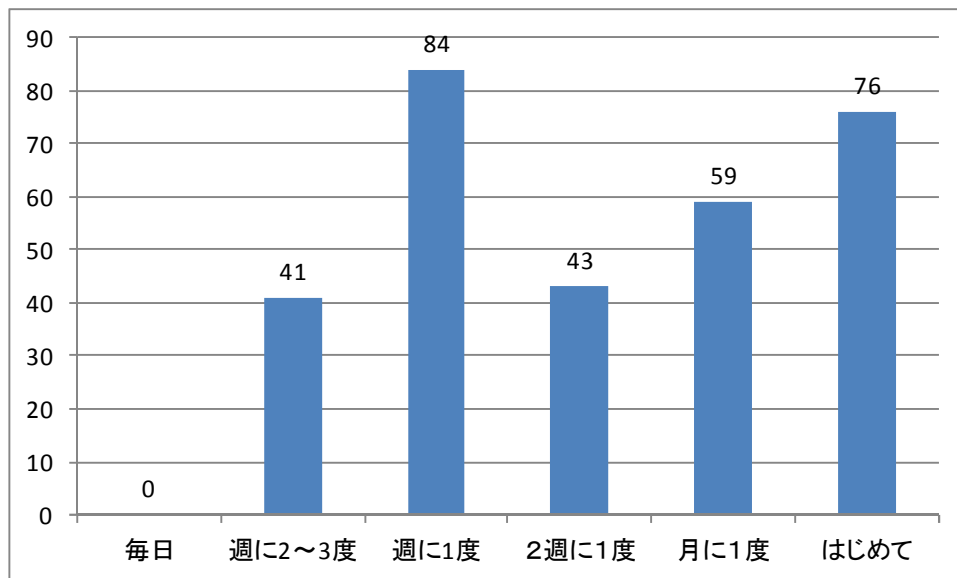
(何人で)



| 1人 | 2人 | 3人 | 4人 | 5人 | 6人 | 合計 |
|-------|-------|-------|------|------|------|--------|
| 110 | 139 | 31 | 21 | 2 | 1 | 304 |
| 36.2% | 45.7% | 10.2% | 6.9% | 0.7% | 0.3% | 100.0% |

問4 みの一れ立川の利用頻度

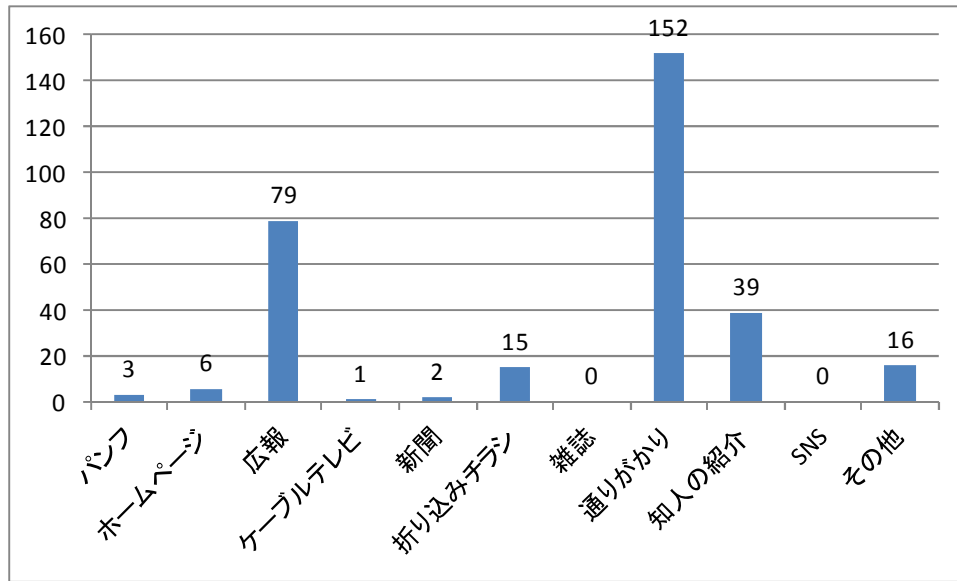
- ・来店の頻度は、週に1度が最も多く27.7%となっている。
- ・次いで、初めての来店者が多く25.1%である。



| 毎日 | 週に 2~3度 | 週に1度 | 2週に1 度 | 月に1度 | はじめて | 合計 |
|------|------------|-------|-----------|-------|-------|--------|
| 0 | 41 | 84 | 43 | 59 | 76 | 303 |
| 0.0% | 13.5% | 27.7% | 14.2% | 19.5% | 25.1% | 100.0% |

問5 初めに施設を何で知ったか

・みの一れ立川をはじめに知ったのは、通りがかりが最も多く 48.6%であり、次いで広報が 25.2%である。



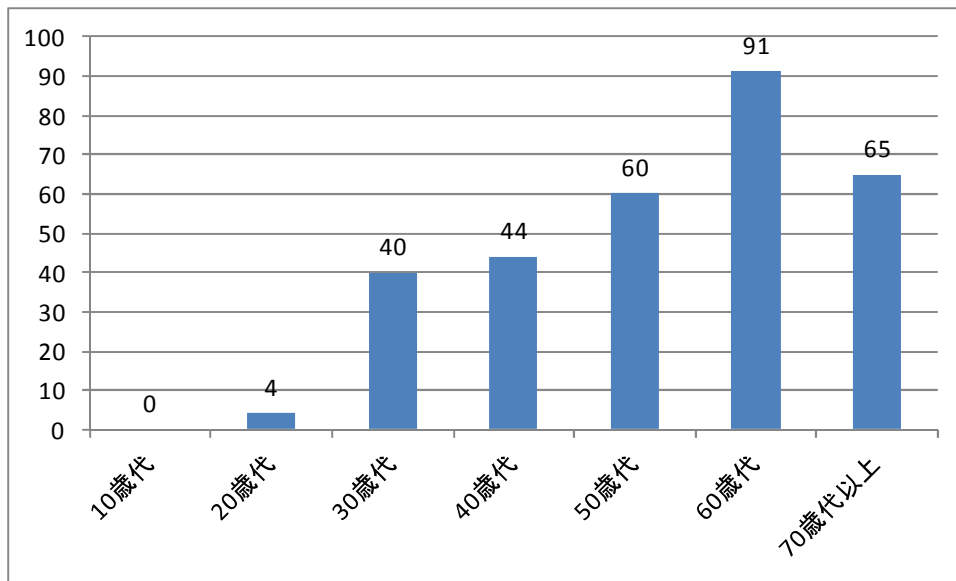
| パンフ | ホームページ | 広報 | ケーブルテレビ | 新聞 | 折り込みチラシ | 雑誌 | 通りがかり | 知人の紹介 | SNS | その他 | 合計 |
|------|--------|-------|---------|------|---------|------|-------|-------|------|------|--------|
| 3 | 6 | 79 | 1 | 2 | 15 | 0 | 152 | 39 | 0 | 16 | 313 |
| 1.0% | 1.9% | 25.2% | 0.3% | 0.6% | 4.8% | 0.0% | 48.6% | 12.5% | 0.0% | 5.1% | 100.0% |

その他の回答

| 回答 |
|-----------------|
| JA職員だから知っていた |
| 産業まつり |
| 市の説明会 |
| 農家だから知っていた |
| 忘れた |
| ミニコミ誌 |
| 農ウオーク |
| すぐ近くなので |
| 出来る前から知っていた |
| JA |
| 農家さんから |
| 広報(建設前に市からのチラシ) |

問6 回答者の年齢

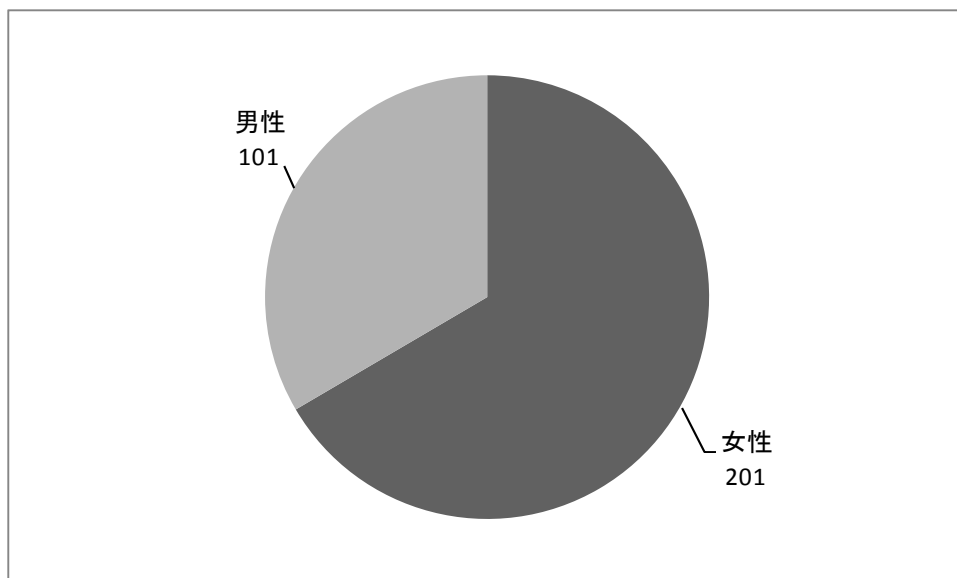
- ・おおむね、30歳以上の各年齢層からの回答を得ているが、中でも29.9%が60歳代と最も多い。



| 10歳代 | 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳代 | 70歳代以上 | 合計 |
|------|------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|
| 0 | 4 | 40 | 44 | 60 | 91 | 65 | 304 |
| 0.0% | 1.3% | 13.2% | 14.5% | 19.7% | 29.9% | 21.4% | 100.0% |

問7 回答者の性別

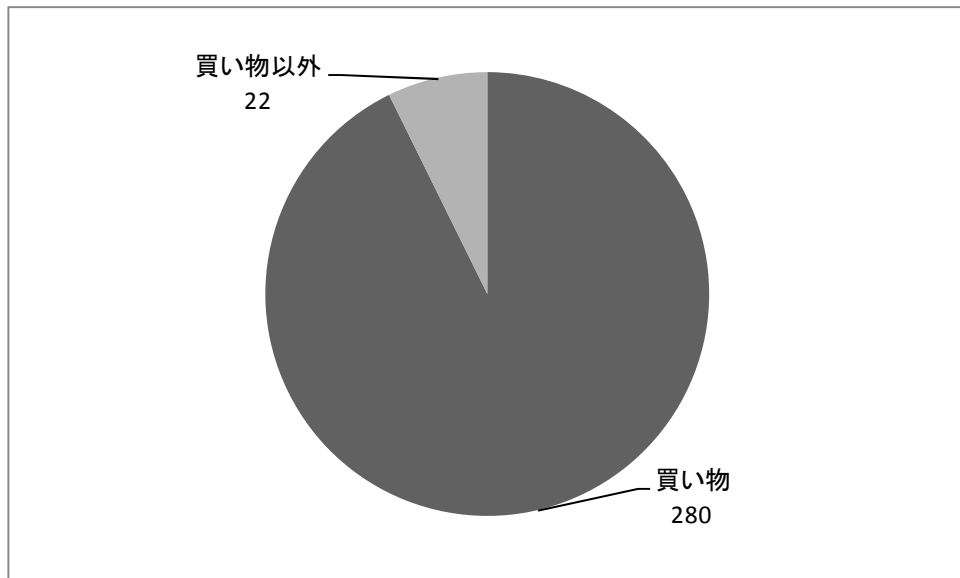
- ・回答者の66.6%が女性であった。



| 女性 | 男性 | 合計 |
|-------|-------|--------|
| 201 | 101 | 302 |
| 66.6% | 33.4% | 100.0% |

問8 来店の目的

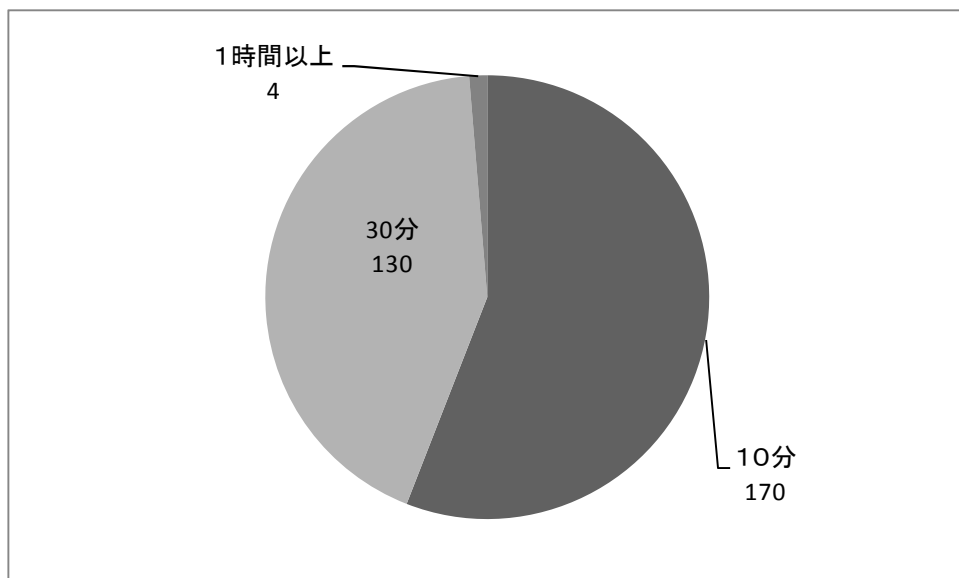
・来店の目的は92.7%が買い物である。



| 買い物 | 買い物以外 | 合計 |
|-------|-------|--------|
| 280 | 22 | 302 |
| 92.7% | 7.3% | 100.0% |

問9 本日の滞在時間

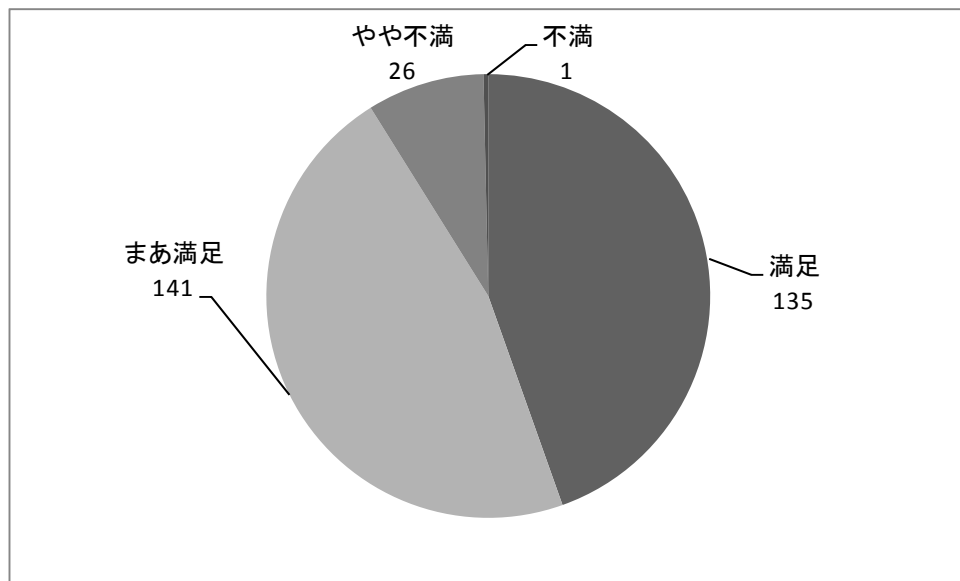
・滞在時間は55.9%が10分程度である。ゆっくりと買い物した人でも、大半が30分以内の滞在時間となっている。



| 10分 | 30分 | 1時間以上 | 合計 |
|-------|-------|-------|--------|
| 170 | 130 | 4 | 304 |
| 55.9% | 42.8% | 1.3% | 100.0% |

問10 みの一れ立川の満足度

- ・みの一れ立川の満足度を見ると、満足、まあ満足合わせて91.1%の人が満足している。
- ・不満、やや不満と回答する人は、合わせて8.9%である。

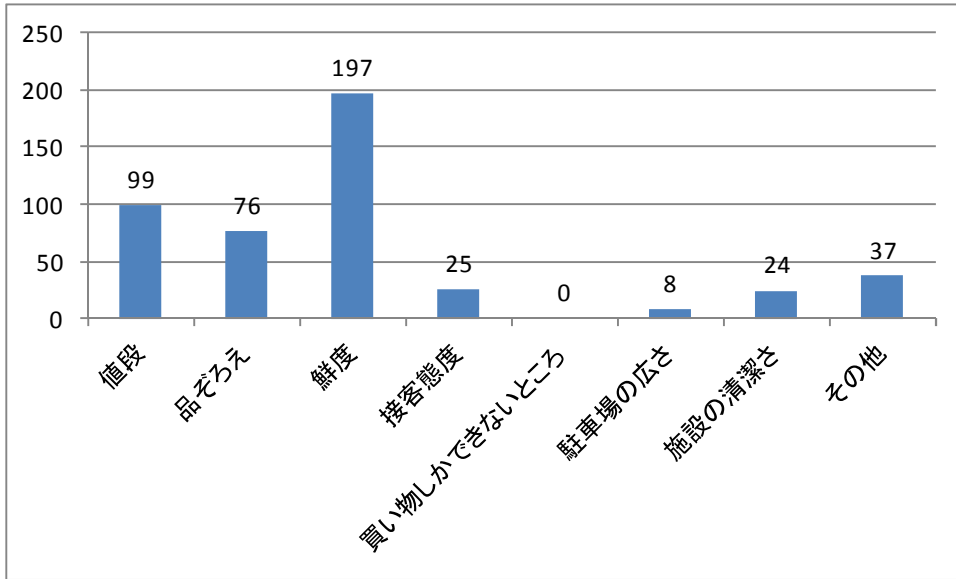


| 満足 | まあ満足 | やや不満 | 不満 | 合計 |
|-------|-------|------|------|--------|
| 135 | 141 | 26 | 1 | 303 |
| 44.6% | 46.5% | 8.6% | 0.3% | 100.0% |

問 1 1 満足の理由 不満の理由

(満足)

・満足の理由としては、「鮮度」が最も多く、42.3%である。



| 値段 | 品ぞろえ | 鮮度 | 接客態度 | 買い物しできないところ | 駐車場の広さ | 施設の清潔さ | その他 | 合計 |
|-------|-------|-------|------|-------------|--------|--------|------|--------|
| 99 | 76 | 197 | 25 | 0 | 8 | 24 | 37 | 466 |
| 21.2% | 16.3% | 42.3% | 5.4% | 0.0% | 1.7% | 5.2% | 7.9% | 100.0% |

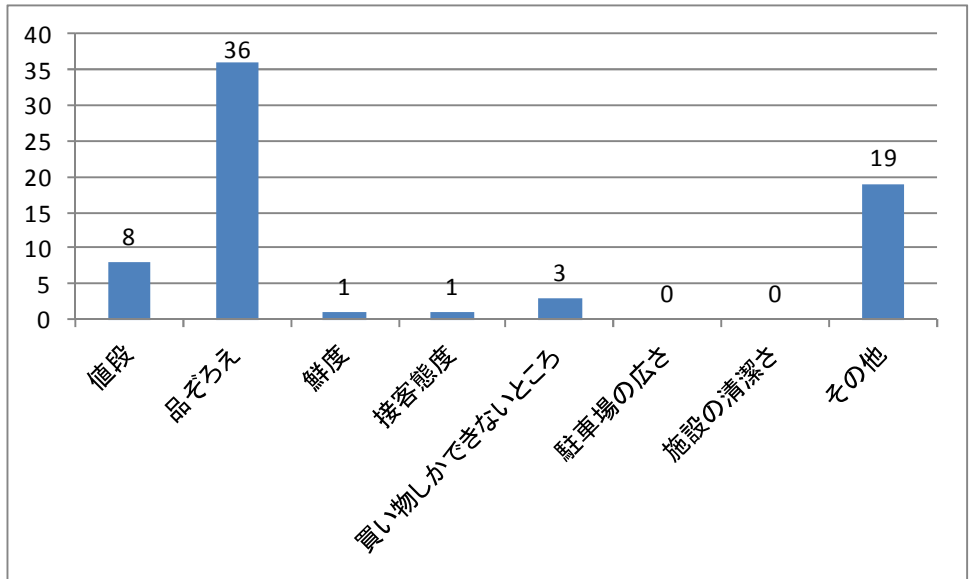
その他の回答

| 回答 |
|---------------------------|
| お芋のレシピなどがよかった |
| 匂いのものを置いてある |
| 葉つきのもので置いてある |
| ゆっくり買い物ができる |
| 味 |
| 親子で楽しめる |
| 地域のものを食べたい |
| 調理法などを教えてくれる |
| 最近品揃えが増えた。面白い地元の野菜が手に入る |
| 地元の物のが手に入る |
| 全体的に |
| 店内が見渡せる |
| 立ち寄りだけ |
| 調理法などのアドバイスがある。朝どりの表示がある。 |
| 特にはない |

| 回答 |
|------------------------------------------------------------------|
| トイレがきれい |
| 今日は品が多かった |
| 野菜が多い |
| ポイント制度 |
| キノコがあるといい |
| 植木もある。草花もある。 |
| 地元の野菜がある |
| 立川産で安心 |
| 地物を買いたい |
| ななめの駐車場が入りにくい。入り口がわかりにくい。暗い。国産で安い。玉子が良い(表示がしっかりある。ネット入りの若どりが良い。) |
| カードが使えない |
| これまで品数が少なかった |
| 近いから |

(不満)

- ・不満の理由として「品ぞろえ」が上げられ、52.9%にのぼる。
- ・満足の理由としても「品ぞろえ」は16.3%の人が回答しているが、特に午後の時間帯ほど、品ぞろえを不満の理由とする人が見られた。



| 値段 | 品ぞろえ | 鮮度 | 接客態度 | 買い物しかなないところ | 駐車場の広さ | 施設の清潔さ | その他 | 合計 |
|-------|-------|------|------|-------------|--------|--------|-------|--------|
| 8 | 36 | 1 | 1 | 3 | 0 | 0 | 19 | 68 |
| 11.8% | 52.9% | 1.5% | 1.5% | 4.4% | 0.0% | 0.0% | 27.9% | 100.0% |

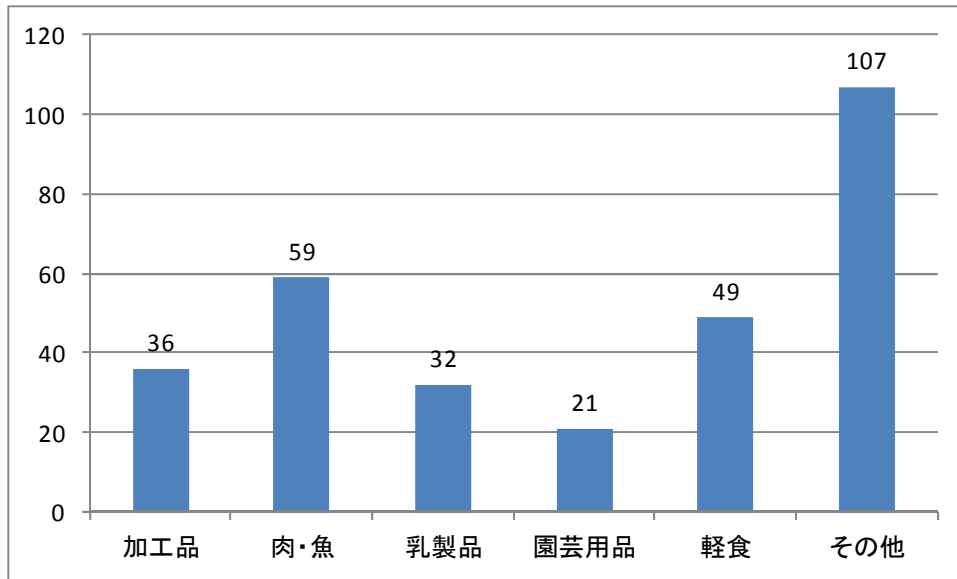
その他の回答

| 回答 |
|-----------------------------------------------|
| 時間によって品ぞろえが悪い |
| 新しい野菜の利用の仕方など説明がほしい |
| 地元のものならなんでも。 |
| すぐに品物なくなる |
| 折込チラシの商品以外の値段は普通。地域以外のものを売っている。地元野菜が一目でわからない。 |
| 八百屋より高い |
| 午後品不足 |
| 農家の野菜を多く |
| 植木 |
| 地元食材を使ったパン屋 |
| 活気がない |
| 野菜の種類を多く |
| 果物。ないものがあること |
| 商品が少ない |
| 量 |
| きれいすぎる所が不安 |
| 品ぞろえに偏りがある。右折できないところ。 |
| 安くない。地元以外のものある |
| スーパーの方が品数が多いと感じた |
| 地元のもの少ない(花) |
| 道路からわかりづらい |

問 1 2 今後充実してほしいもの

(販売品)

- ・今後充実してほしい販売品として、もっとも多かったのは「その他」であり、特に「野菜の種類を充実させてほしい」「どの時間帯でも野菜を充実させてほしい」といった意見が目立つ。



| 加工品 | 肉・魚 | 乳製品 | 園芸用品 | 軽食 | その他 | 合計 |
|-------|-------|-------|------|-------|-------|--------|
| 36 | 59 | 32 | 21 | 49 | 107 | 304 |
| 11.8% | 19.4% | 10.5% | 6.9% | 16.1% | 35.2% | 100.0% |

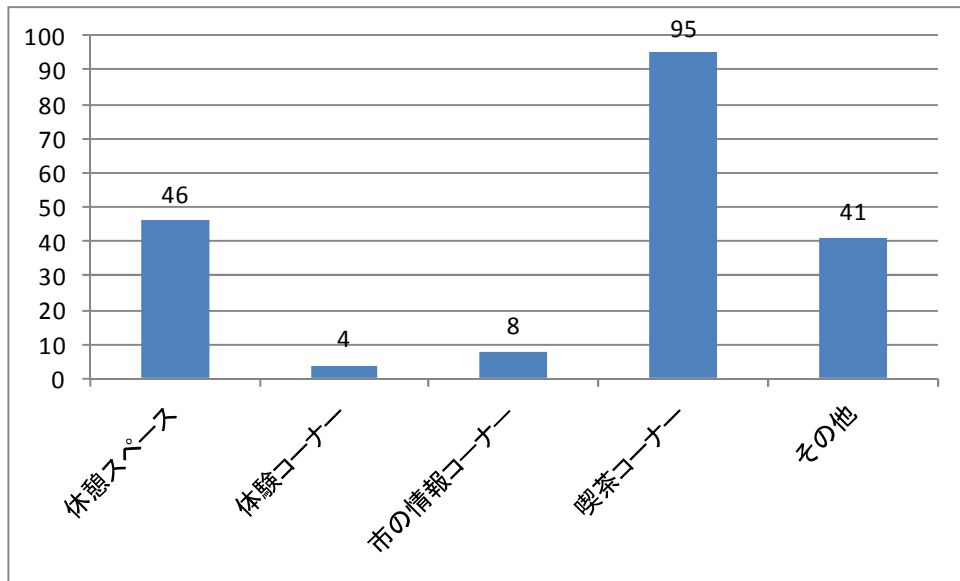
その他の回答

| 回答 |
|-----------------------------------|
| 無農薬野菜 |
| サラダ用の色どり野菜(赤、黄)を充実 |
| 灯油 |
| 立川産の野菜 |
| 野菜を充実 |
| どんな時間帯でも品ぞろえをよくする |
| おやつ |
| 地元の特産 |
| いろいろなグレードの野菜(キズありとかも) |
| 野菜の品ぞろえをよくする |
| 地域の鮮度の良い野菜を充実 |
| 酒、メダカや金魚(道の駅のイメージ) |
| パン |
| 周辺地域の特産(乾燥山くらげ等) |
| 野菜の種類など、道の駅のように品物を充実 |
| お弁当 |
| 地粉のうどん、漬物など |
| 植木の注文、植木農家の紹介 |
| 食品全ての買い物ができるように |
| 午後でも品ぞろえよくしてほしい。 |
| 立川でとれる野菜を多くしてほしい。 |
| 道の駅のような品ぞろえ。商品に農家名が入っていれば、自分で行ける。 |
| きれいな野菜でなくても、安いものを売ってほしい |

| 回答 |
|-------------------------|
| 小分けにしてほしい |
| ここでしか買えないもの |
| ベビーフード |
| 良い品をもっと |
| 野菜の苗 |
| 地元の物を使った惣菜 |
| 鮮度の良いもの。スーパーよりも安く売ってほしい |
| 朝採れ野菜を多く |
| 珍しい野菜 |
| 料理のサンプル |
| 新鮮第一の野菜を多く |
| 多摩の地場産品 |
| 果物 |
| 豆腐が美味しい |
| うどん等 生 |
| やさしい |
| 漬物 |
| ここで買い物が完結すると良い |
| 地元の花 |
| くず米 |
| ランチ位できると良い |
| 苗は買うけど、土がないので困る |
| 今のままで良い |

(施設)

- ・今後充実させてほしい施設としては、「喫茶コーナー」が最も多く 49.0%、次いで「休憩スペース」が 23.7%である。



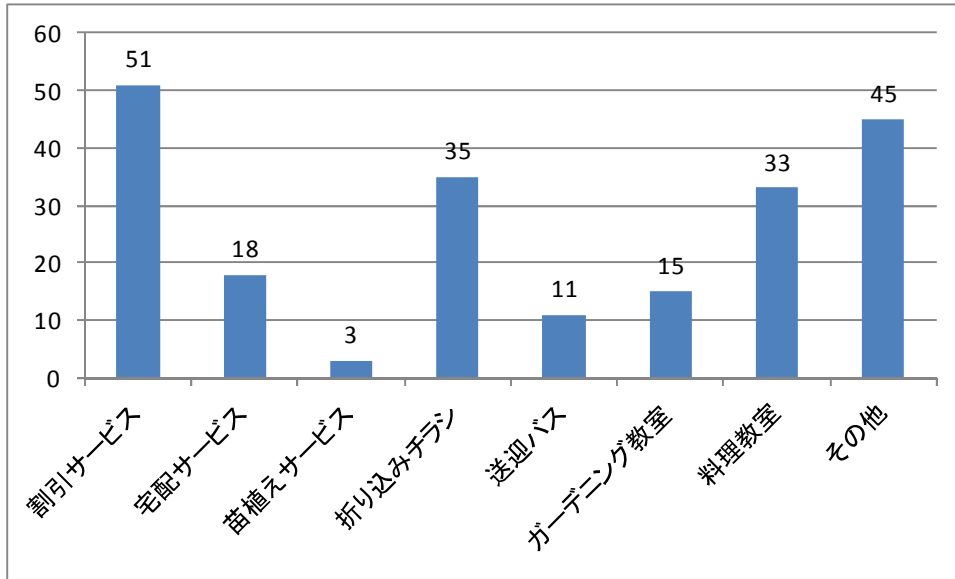
| 休憩スペース | 体験コーナー | 市の情報コーナー | 喫茶コーナー | その他 | 合計 |
|--------|--------|----------|--------|-------|--------|
| 46 | 4 | 8 | 95 | 41 | 194 |
| 23.7% | 2.1% | 4.1% | 49.0% | 21.1% | 100.0% |

その他の回答

| 回答 |
|-----------------------------|
| 子どもの遊び場 |
| 自動販売機 |
| 何かもっと |
| 喫煙所 |
| イベントスペース |
| 駐車場の出入り |
| 福祉作業所の販売や働ける場所 |
| 施設の場所がわかりづらい |
| 子供のおむつ替えスペース |
| もっと早くから開店してほしい |
| 地場野菜のレストランやカレー店 |
| レストラン |
| 自動販売機 |
| フードコート、道の駅のように |
| たこやきあるといい。 |
| あきる野のファーマーズ位たのしく、華やかにしてほしい。 |
| 特に不要 |

(イベント・サービス)

- ・今後充実させてほしいイベント・サービスとしては、「割引サービス」が最も多く 24.2%、次いで「折り込みチラシ」16.6%、「料理教室」15.6%となっている。
- ・「その他」と回答する中には、ポイントサービスといった、割引サービスにつながる意見が目立った。



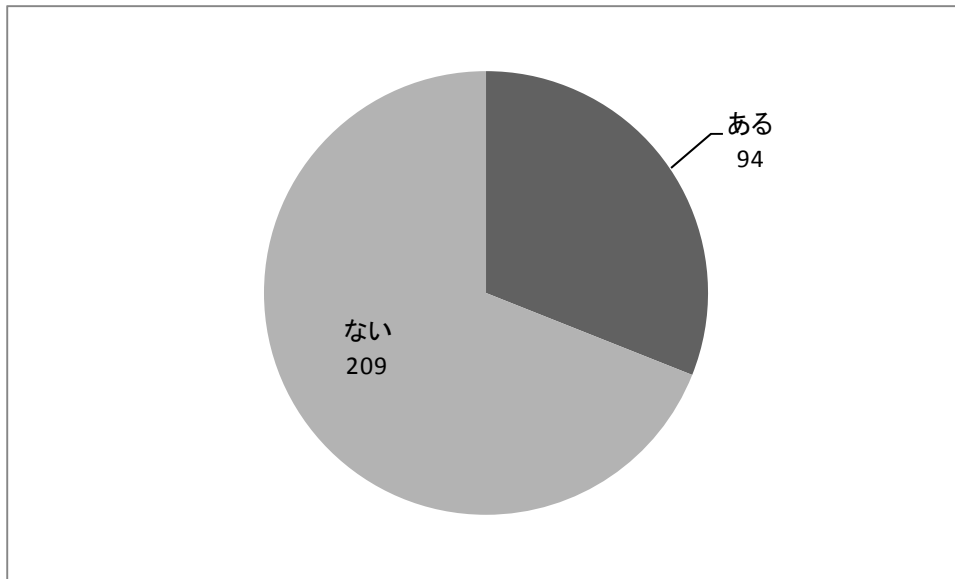
| 割引サービス | 宅配サービス | 苗植えサービス | 折り込みチラシ | 送迎バス | ガーデニング教室 | 料理教室 | その他 | 合計 |
|--------|--------|---------|---------|------|----------|-------|-------|--------|
| 51 | 18 | 3 | 35 | 11 | 15 | 33 | 45 | 211 |
| 24.2% | 8.5% | 1.4% | 16.6% | 5.2% | 7.1% | 15.6% | 21.3% | 100.0% |

その他の回答

| 回答 |
|-------------------------------------------------------------|
| 9時から開店してほしい |
| 地元加工品の即売 |
| 道の駅のイメージ |
| クーポン |
| アドバイスの貼り紙 |
| 食べ方のレシピを貼る |
| ポイントサービス |
| 午後でも品物をそろえてほしい |
| 植木茉莉、もちつき大会、不揃い野菜の詰め放題 |
| 新聞をとっていない人でもチラシが見れるよう、ホームページでチラシを配る。メルマガで、今何が入荷しているのか情報を発信。 |
| 特売 |
| 何曜日に何が安いのがわかるとよい。目玉商品 |
| 会員サービス |
| フリーマーケット |
| 農家の食育活動 |
| 袋があると便利 |
| イベントをやったらいい |
| 休日にも |
| 宅配は今後必要になると思う |
| HP等での特売情報 |
| 不要 |

問 1 3 みの一れ立川に来る前に立ち寄った施設

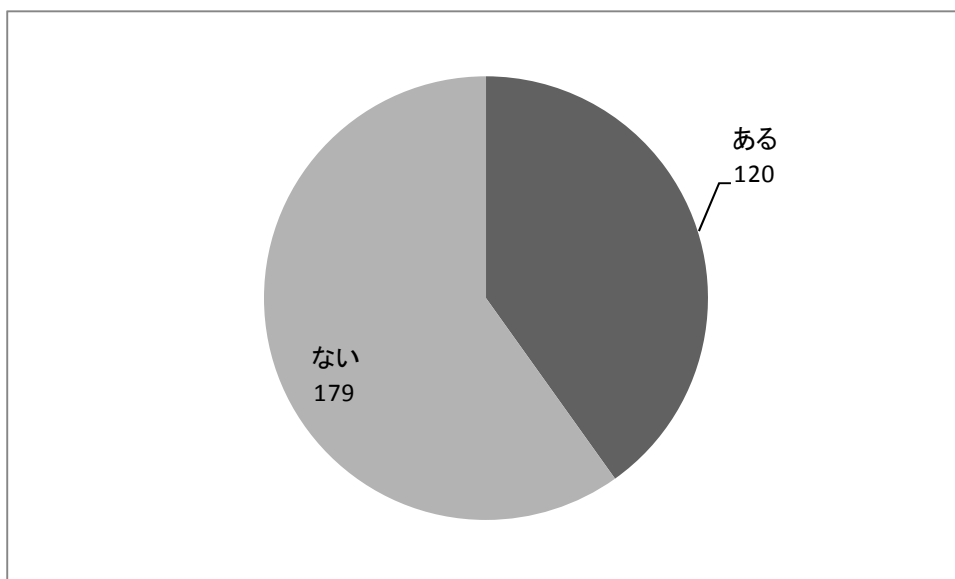
- ・回答者の 69.0%が、どこにも立ち寄らず、みの一れ立川に来店している。
- ・「立ち寄った」と回答した人は、近隣の大型スーパーが目立った。



| ある | ない | 合計 |
|-------|-------|--------|
| 94 | 209 | 303 |
| 31.0% | 69.0% | 100.0% |

問 1 4 この後立ち寄る施設

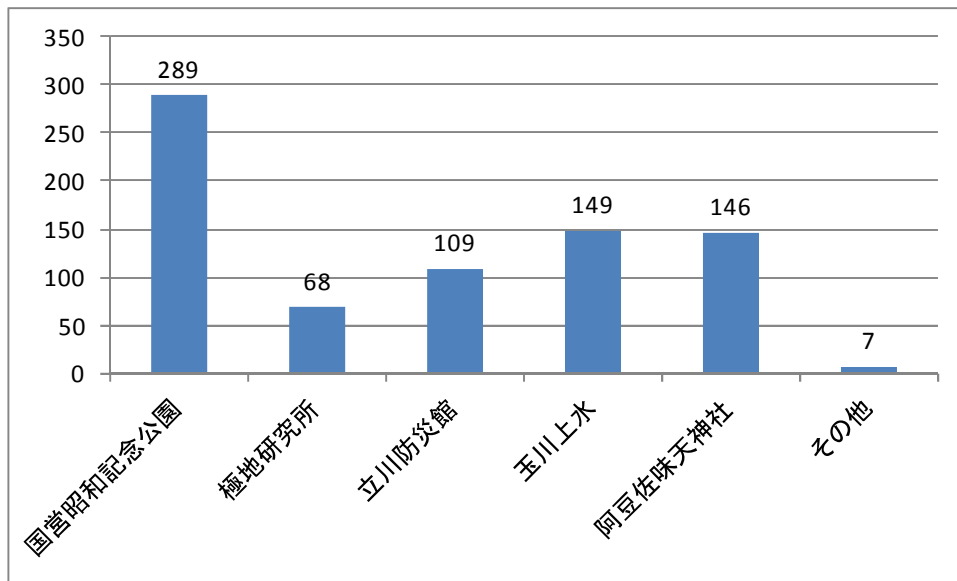
- ・回答者の 59.9%がどこにも立ち寄らず帰宅する。
- ・「立ち寄る」と回答した人は、近隣の大型スーパーや、立川駅周辺のデパートなどが目立った。



| ある | ない | 合計 |
|-------|-------|--------|
| 120 | 179 | 299 |
| 40.1% | 59.9% | 100.0% |

問15 周辺で利用したことのある施設

・周辺で利用したことのある施設としては、国営昭和記念公園が最も多く、37.6%である。立川防災館は、自治会や学校の行事で行ったことがあるとする人が目立った。



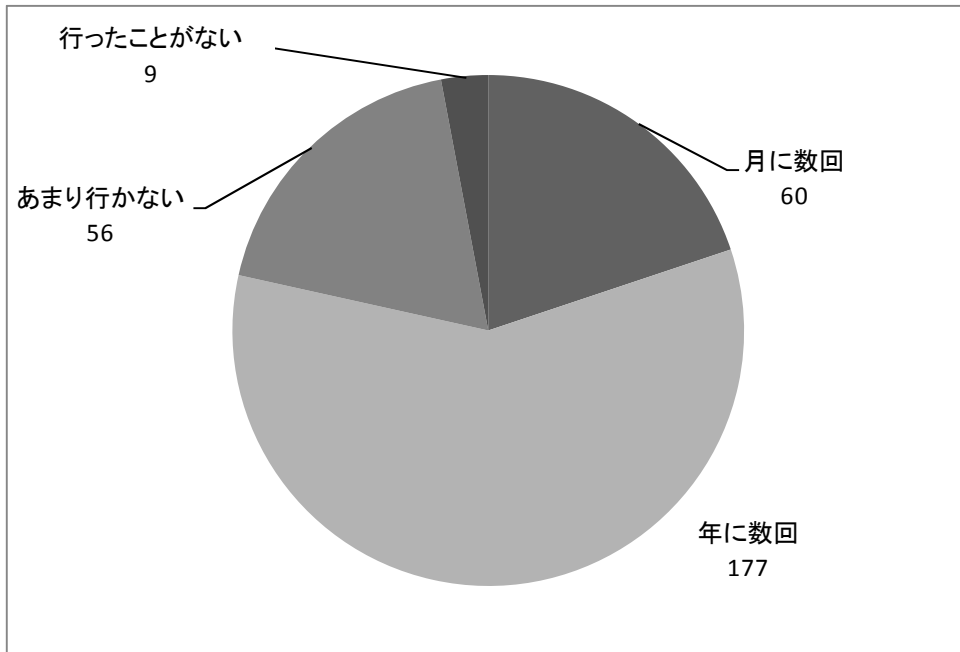
| 国営昭和記念公園 | 極地研究所 | 立川防災館 | 玉川上水 | 阿豆佐味天神社 | その他 | 合計 |
|----------|-------|-------|-------|---------|------|--------|
| 289 | 68 | 109 | 149 | 146 | 7 | 768 |
| 37.6% | 8.9% | 14.2% | 19.4% | 19.0% | 0.9% | 100.0% |

その他の回答

| 回答 |
|-----------------|
| 水利科学研究所 |
| 残堀川 |
| 砂川支所 |
| 市役所 |
| 場所は知っているが、行かない。 |

問 1 6 国営昭和記念公園の利用頻度

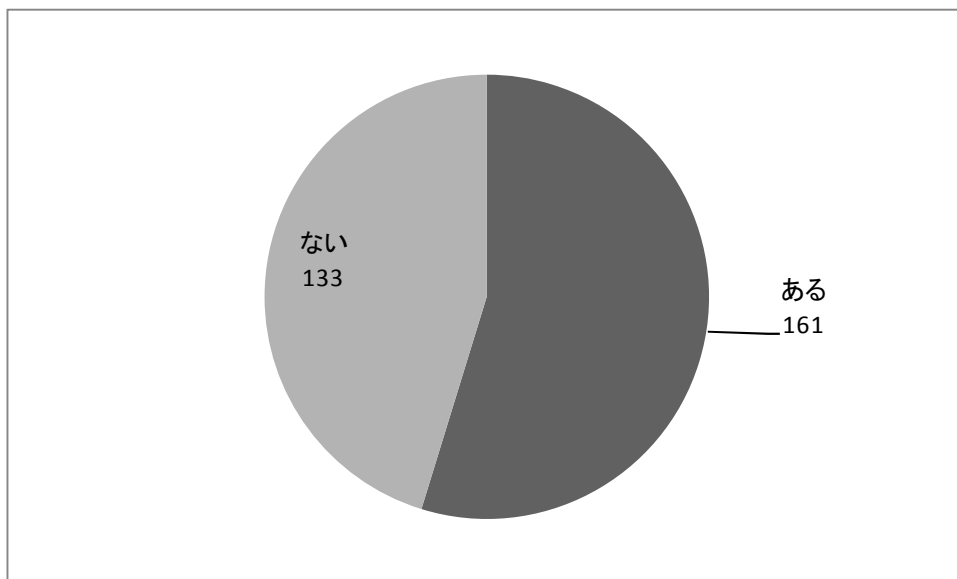
- ・国営昭和記念公園の利用頻度としては、「年に数回」と回答する人が 58.6%と最も多く、「月に数回」と回答する人が 19.9%である。



| 月に数回 | 年に数回 | あまり行かない | 行ったことがない | 合計 |
|-------|-------|---------|----------|--------|
| 60 | 177 | 56 | 9 | 302 |
| 19.9% | 58.6% | 18.5% | 3.0% | 100.0% |

問 1 7 農業体験に関心はあるか

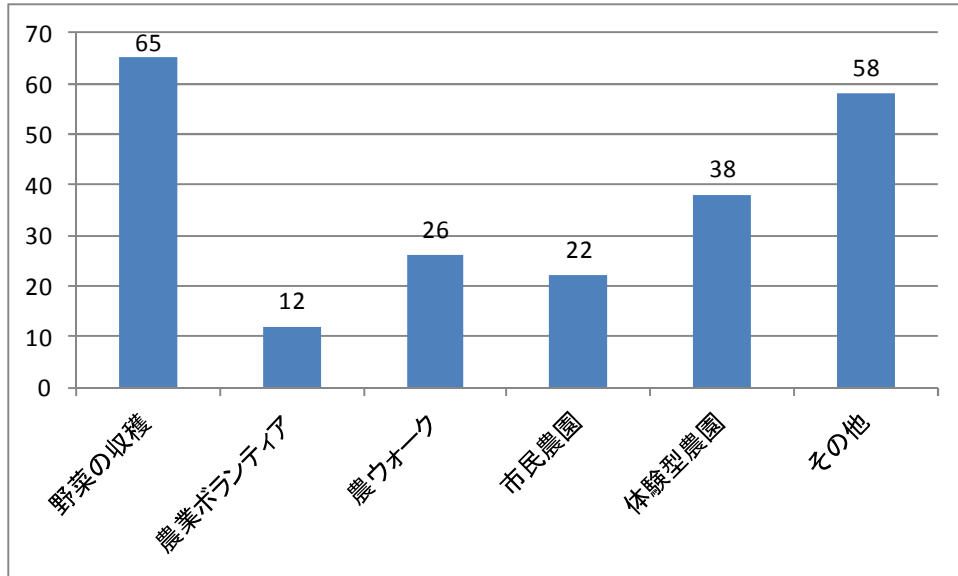
- ・農業体験への関心は、「ある」と回答した人が 54.8%、「ない」と回答した人が 45.2%とほぼ半々に分かれた。
- ・特に回答者が高齢者の場合は、体力的なことを理由に「ない」と回答する姿が目立った。



| ある | ない | 合計 |
|-------|-------|--------|
| 161 | 133 | 294 |
| 54.8% | 45.2% | 100.0% |

問 18 参加してみたい農業体験

- ・参加してみたい農業体験としては、「野菜の収穫」が最も多く 29.4%であり、高齢者から子育て世代まで幅広く意見が集まった。
- ・次いで、「体験型農園」に参加してみたいという回答が 17.2%と多かった。
- ・その他としては、本格的な農作業や農家暮らしといったものや、料理教室や野菜ソムリエ、ハムづくりのようなものへの意見が多かった。



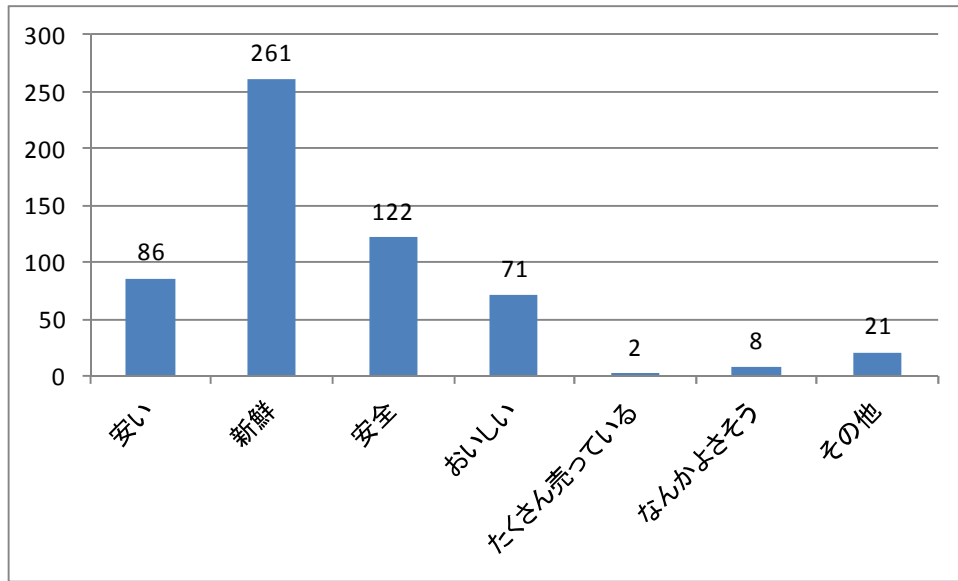
| 野菜の収穫 | 農業ボランティア | 農ウオーク | 市民農園 | 体験型農園 | その他 | 合計 |
|-------|----------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 65 | 12 | 26 | 22 | 38 | 58 | 221 |
| 29.4% | 5.4% | 11.8% | 10.0% | 17.2% | 26.2% | 100.0% |

その他の回答

| 回答 | 票数 |
|-------------------------------------|----|
| クラフト体験 | 3 |
| すでに自分で畑をやってる | 6 |
| なんともいえない | 2 |
| ハムづくり | 1 |
| やっている事を知らないなので教えてほしい。 | 1 |
| 家庭菜園 | 3 |
| 関心はあるが、これといってやってみたいと思わない。 | 1 |
| 現在古民家園で年間の農作業を行っている | 1 |
| 子供と参加したい | 1 |
| 自家製加工食品体験 | 9 |
| 自分は関心はないが、市民農園等があると良い | 1 |
| 実家で農業をやっていた。 | 1 |
| 食育体験 | 6 |
| 全部やってみたいが、情報を知らないので出してほしい。 | 1 |
| 駐車場がある農園を作ってほしい | 1 |
| 農家の人と話す機会 | 1 |
| 農家暮らし体験(宿泊あり) | 5 |
| 農作業ならなんでも | 3 |
| 農村体験(宿泊なし) | 4 |
| 平日ではなく、土日で開催すれば参加できる。以前参加してとても良かった。 | 1 |
| 本格的な農業 | 1 |
| 野菜ソムリエ講座 | 7 |
| 料理教室 | 16 |

問 19 地元野菜を選択する理由

・地元野菜を選択する理由として、「新鮮」と回答する人が 45.7%であった。次いで「安全」21.4%、「安い」15.1%、「おいしい」12.4%となっている。



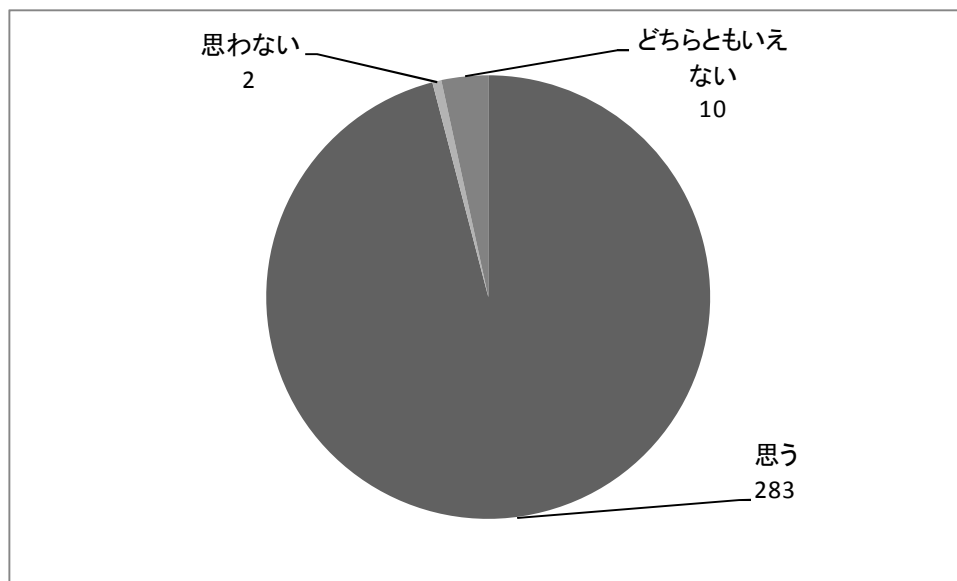
| 安い | 新鮮 | 安全 | おいしい | たくさん売っている | なんかもよさそう | その他 | 合計 |
|-------|-------|-------|-------|-----------|----------|------|--------|
| 86 | 261 | 122 | 71 | 2 | 8 | 21 | 571 |
| 15.1% | 45.7% | 21.4% | 12.4% | 0.4% | 1.4% | 3.7% | 100.0% |

その他の回答

| 回答 |
|-------------------------|
| 地元を知りたい。地元のもの食べたい。 |
| 葉が付いている |
| 地域のもの食べたい |
| 地域貢献 |
| 珍しいものが手に入る |
| ここに来てみたかった。 |
| 名前が出ている |
| 地元で作られている。野菜を食べる |
| 地産のものが体にいい。 |
| 便利 |
| 市場になかったから |
| 新鮮 |
| 親しみがある |
| 地元(立川)の人が作っているものを選択している |
| 特になし |

問20 立川市の農地を残したいと思うか

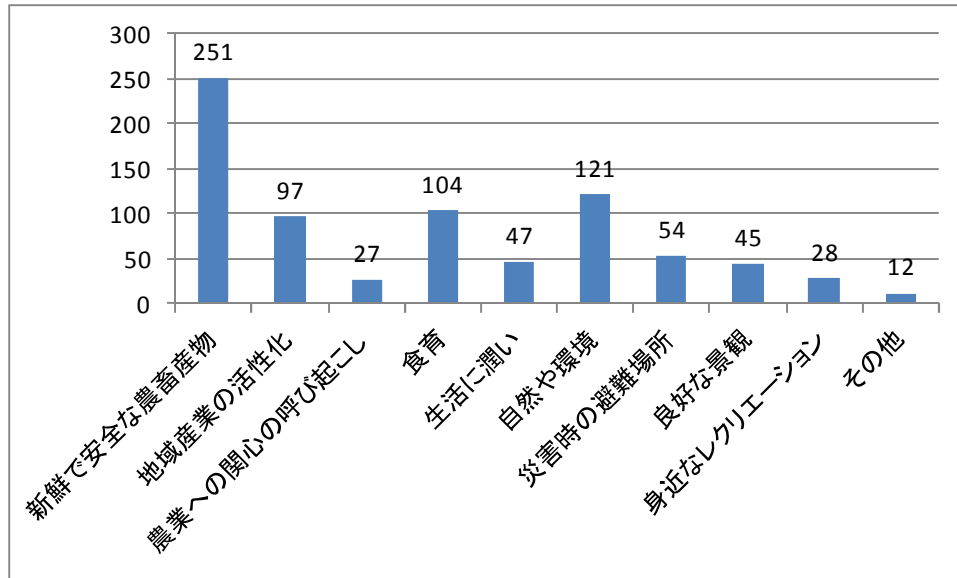
・立川市の農地は残したいと思う人が、95.9%であり、農地を存続させる意向は高い。



| 思う | 思わない | どちらともいえない | 合計 |
|-------|------|-----------|--------|
| 283 | 2 | 10 | 295 |
| 95.9% | 0.7% | 3.4% | 100.0% |

問 2 1 農地の役割

- ・農地に望む役割としては、「新鮮で安全な農産物の供給」が 31.9%と最も多く、地元野菜は新鮮だから選択するという、問 19 の回答につながる。
- ・次いで、「自然や環境」15.4%、「食育」13.2%、「地域産業の活性化」12.3%となっている。



| 新鮮で安全な農畜産物 | 地域産業の活性化 | 農業への関心の呼び起こし | 食育 | 生活に潤い | 自然や環境 | 災害時の避難場所 | 良好な景観 | 身近なレクリエーション | その他 | 合計 |
|------------|----------|--------------|-------|-------|-------|----------|-------|-------------|------|--------|
| 251 | 97 | 27 | 104 | 47 | 121 | 54 | 45 | 28 | 12 | 786 |
| 31.9% | 12.3% | 3.4% | 13.2% | 6.0% | 15.4% | 6.9% | 5.7% | 3.6% | 1.5% | 100.0% |

その他の回答

| 回答 |
|-----------------------------------|
| 季節感がある |
| 農家も消費者も満足できる場 |
| 農家が儲かる仕組みを考えてほしい。 |
| 若い人たちが集まるもの |
| 菜園付住宅 |
| 健康。体を動かす。 |
| 道路が悪い。(入口がわかりにくい) |
| 地元の店なのでもっとにぎわってほしい。 |
| 車で来ても入口がわかりにくいと思う。 |
| 自分の畑等で、管理を引き受けてくれる人がいると良い。 |
| みのーれが近くにできてうれしい。こういう場所をもっと作ってほしい。 |
| 特になし |

(5) まとめ

<みの一れ立川について>

①利用者満足度は高い

- ・満足度の高い理由としては、野菜の鮮度が上げられる。

②品ぞろえは今後の課題として上げられる

- ・一部の利用者からは、品ぞろえの悪さが原因で、不満の声が上げられている。
- ・特に、午後の時間帯になると、商品数が少なくなることで品ぞろえの悪さを言うお客様が多い。
- ・加工品や軽食といった、地元野菜を使った商品を求める声もある一方で、様々な野菜の種類を求める声も多い。

③サービス面、施設面の拡充を求める声は多い

- ・施設面では、飲食スペース、休憩スペースを求める声が多い。
- ・サービス面では、ポイントサービス、割引サービスといった値引きに関するもののほか、インターネット等を活用したリアルタイムな品ぞろえ情報といったものもある。

④国営昭和記念公園をはじめ、周辺施設との回遊化は今後の課題

- ・国営昭和記念公園を利用したことのある人は大半を占めるものの、みの一れ立川を訪れる前後に立ち寄る人は、現状では少ない状況である。

⑤農業体験をしてみたい人の多くは、野菜の収穫体験

- ・農業体験への意向は半数程度であり、その多くは野菜の収穫体験といった手軽に取り組めるものが上げられた。
- ・農業体験への意向がない人の理由として、体力、年齢などが上げられる。

⑥立川の農地、農業への残存意向は高い

- ・地元野菜を選ぶ理由として、新鮮、安全が多く上げられるとともに、立川の農地、農業に対し、新鮮で安全な農産物の供給が筆頭に上げられる。

第2節 周知・啓発イベント参加者へのアンケート調査

(1) 調査目的

生産者による畑の案内や、観光ボランティアによる歴史にまつわる説明、収穫体験や試食など、立川の農地や史跡を歩きながら、見て、知っていただくウォーキングツアーとして、「農ウォーク」を実施した。

参加者へのアンケートを通じて、今後の立川市における農業をテーマとしたイベントや学習機会の必要性を探る。

(2) 調査対象・期間・回収状況

①調査対象

農ウォーク参加者

②期間・回収状況

アンケートを実施した日程ごとの回収数は以下の通りである。

| 日程 | 回収数 |
|-----------------------|-----|
| 11月17日(日) 農ウォーク終了時 | 18票 |

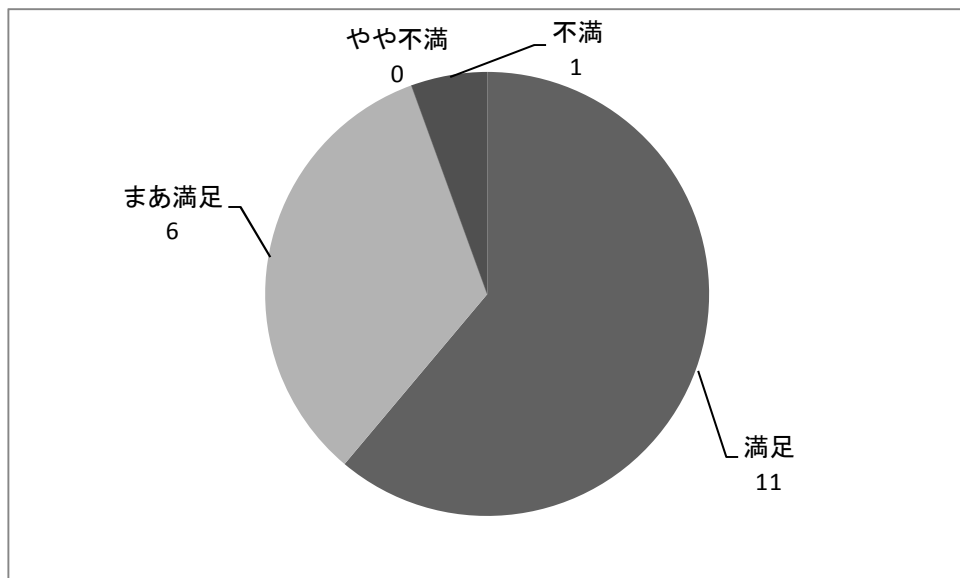
(3) 設問内容

- 問1 イベントの満足度
- 問2 イベントで一番よかった催し
- 問3 イベントの認知手段
- 問4 農業イベントへの参加意向
- 問5 参加してみたいイベント
- 問6 国営昭和記念公園とみの一れ立川の連携策(自由回答)
- 問7 お住まいの地域
- 問8 イベント参加の交通手段
- 問9 イベント参加の人数・同行者
- 問10 年齢階層
- 問11 性別

(4) 集計結果

問1 本日のイベントに参加した感想

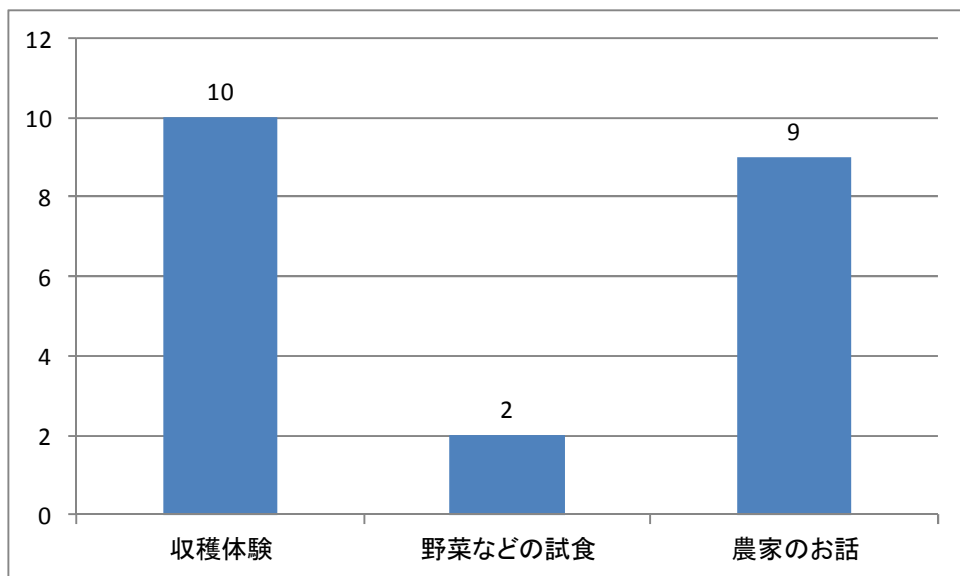
- ・農ウォークイベントへの満足度は、「満足」、「まあ満足」あわせて 94.4%と、おおむね参加者は満足している。



| 満足 | まあ満足 | やや不満 | 不満 | 合計 |
|-------|-------|------|------|--------|
| 11 | 6 | 0 | 1 | 18 |
| 61.1% | 33.3% | 0.0% | 5.6% | 100.0% |

問2 本日、一番よかったイベント

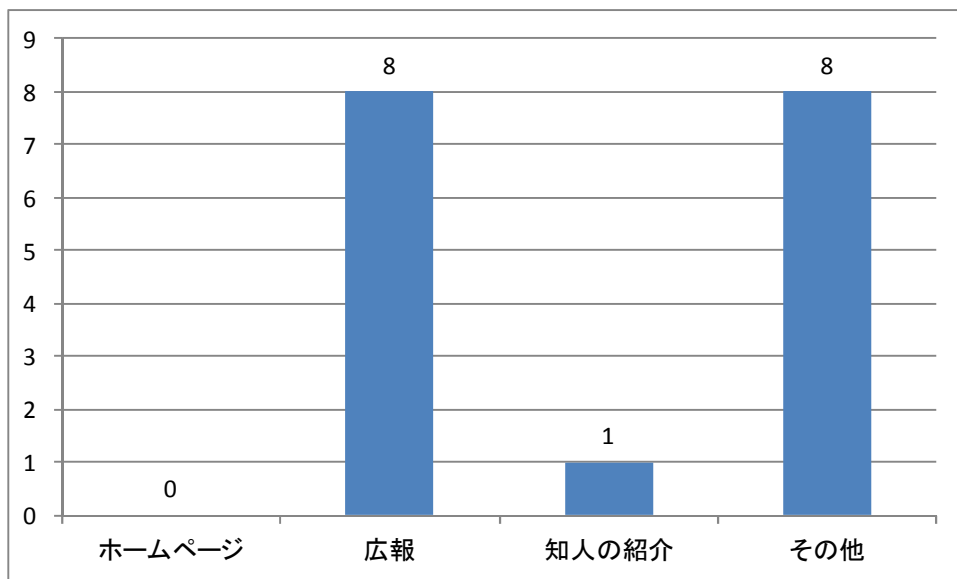
- ・参加者は「野菜の収穫体験」、「農家のお話」への満足度が高い。



| 収穫体験 | 野菜などの試食 | 農家のお話 | 合計 |
|-------|---------|-------|--------|
| 10 | 2 | 9 | 21 |
| 47.6% | 9.5% | 42.9% | 100.0% |

問3 本日のイベントはどこで知ったか

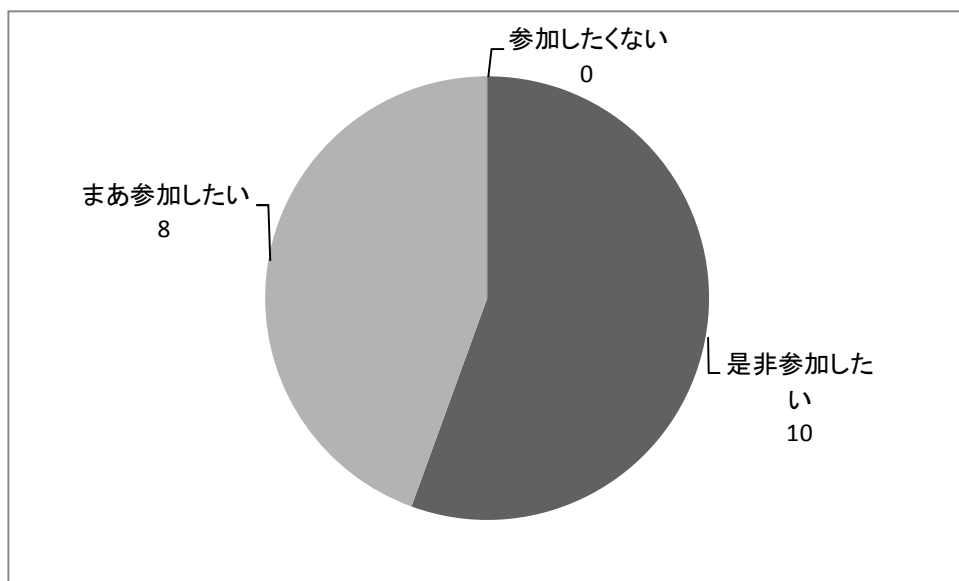
- ・多くの参加者が広報で情報を得ており、その他、新聞、案内 FAX が主な手段となっている。



| ホームページ | 広報 | 知人の紹介 | その他 | 合計 |
|--------|-------|-------|-------|--------|
| 0 | 8 | 1 | 8 | 17 |
| 0.0% | 47.1% | 5.9% | 47.1% | 100.0% |

問4 今後も農業イベントに参加したいか

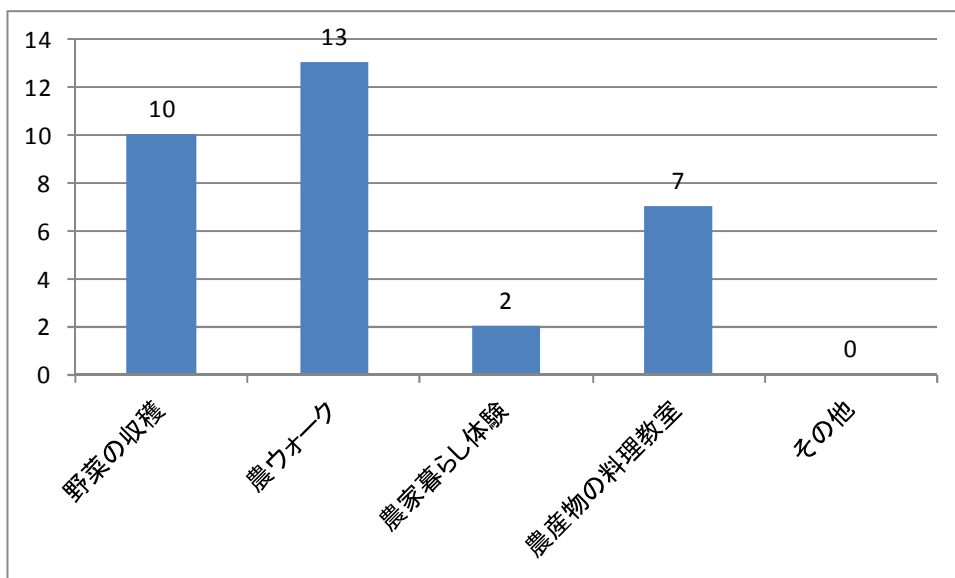
- ・参加者全員が、今後も農業イベントに「参加したい」あるいは「まあ参加したい」と回答している。



| 是非参加したい | まあ参加したい | 参加したくない | 合計 |
|---------|---------|---------|--------|
| 10 | 8 | 0 | 18 |
| 55.6% | 44.4% | 0.0% | 100.0% |

問5 今後どのようなイベントに参加したいか

- ・今後、参加したいイベントとしては、「農ウォーク」や「野菜の収穫体験」といった、当日のイベントと同様のものに回答が集まっている。
- ・また、女性参加者からは、「農産物の料理教室」への参加意向もみられた。



| 野菜の収穫 | 農ウォーク | 農家暮らし体験 | 農産物の料理教室 | その他 | 合計 |
|-------|-------|---------|----------|------|--------|
| 10 | 13 | 2 | 7 | 0 | 32 |
| 31.3% | 40.6% | 6.3% | 21.9% | 0.0% | 100.0% |

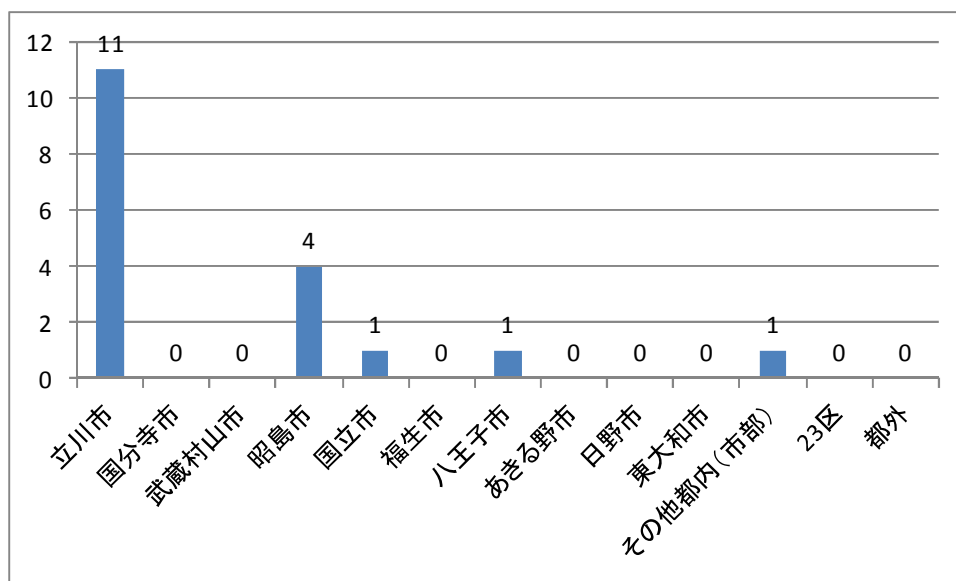
問6 国営昭和記念公園と「みのーれ立川」で連携したらよい事業

- ・回答はほとんど得られなかったものの、農産物を利用した料理教室等への意見があった。

| | ご意見 |
|---|--------------------------------------|
| 1 | 料理教室 |
| 2 | 距離的に近いので、公園内にPR等の立て札をたてるとか、ポスターを貼るとか |
| 3 | 乳製品も |
| 4 | 立川でとれたものを料理するイベントの企画 |

問7 お住まいの地域

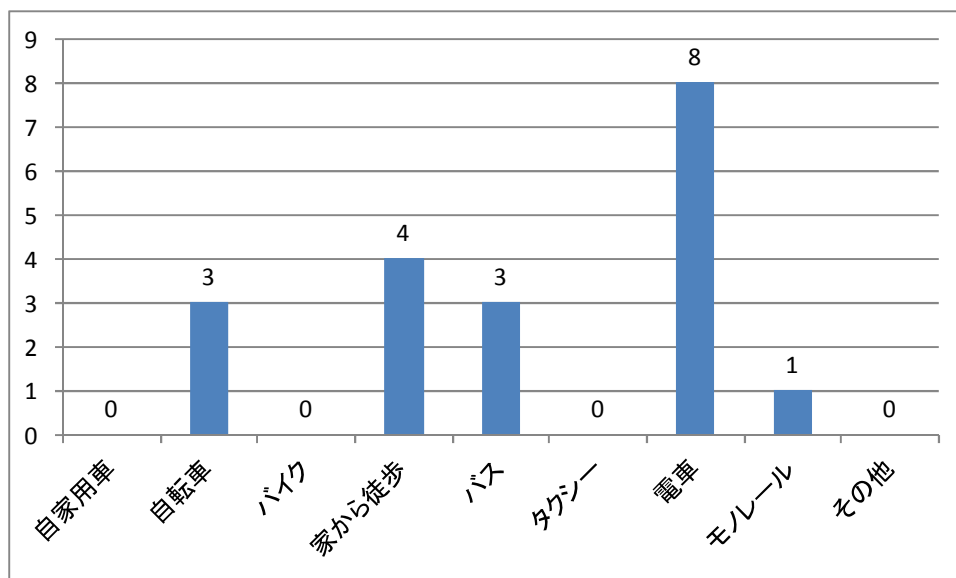
- ・61.1%の人が立川市内からの参加である。その他、昭島市、八王子市、小平市からの参加があった。



| 立川市 | 国分寺市 | 武蔵村山市 | 昭島市 | 国立市 | 福生市 | 八王子市 | あきる野市 | 日野市 | 東大和市 | その他都内(市部) | 23区 | 都外 | 合計 |
|-------|------|-------|-------|------|------|------|-------|------|------|-----------|------|------|--------|
| 11 | 0 | 0 | 4 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 18 |
| 61.1% | 0.0% | 0.0% | 22.2% | 5.6% | 0.0% | 5.6% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 5.6% | 0.0% | 0.0% | 100.0% |

問8 本日の交通手段

- ・参加者の42.1%が電車を利用し、近隣の参加者は徒歩での参加となっている。

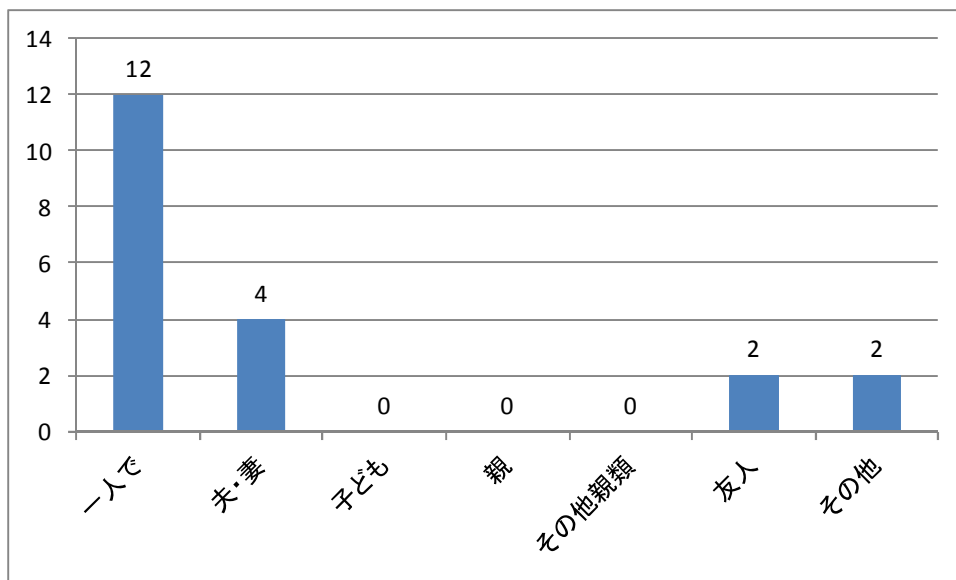


| 自家用車 | 自転車 | バイク | 家から徒歩 | バス | タクシー | 電車 | モノレール | その他 | 合計 |
|------|-------|------|-------|-------|------|-------|-------|------|--------|
| 0 | 3 | 0 | 4 | 3 | 0 | 8 | 1 | 0 | 19 |
| 0.0% | 15.8% | 0.0% | 21.1% | 15.8% | 0.0% | 42.1% | 5.3% | 0.0% | 100.0% |

問9 本日はどなたと何人で参加したか

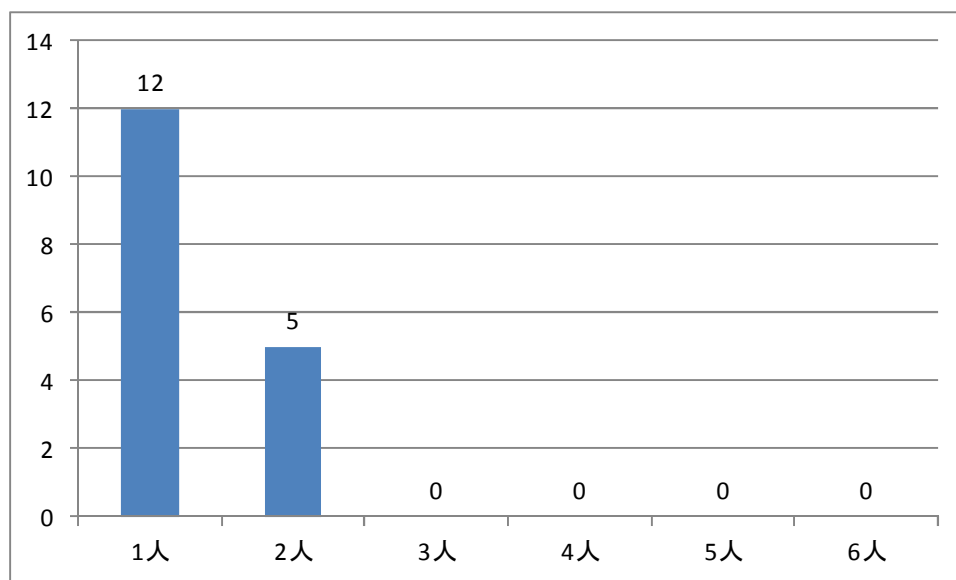
- 参加者の60%が一人での参加となっており、その他夫婦、友人と2人での参加となっている。

(誰と)



| 一人で | 夫・妻 | 子ども | 親 | その他親類 | 友人 | その他 | 合計 |
|-------|-------|------|------|-------|-------|-------|--------|
| 12 | 4 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 20 |
| 60.0% | 20.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 10.0% | 10.0% | 100.0% |

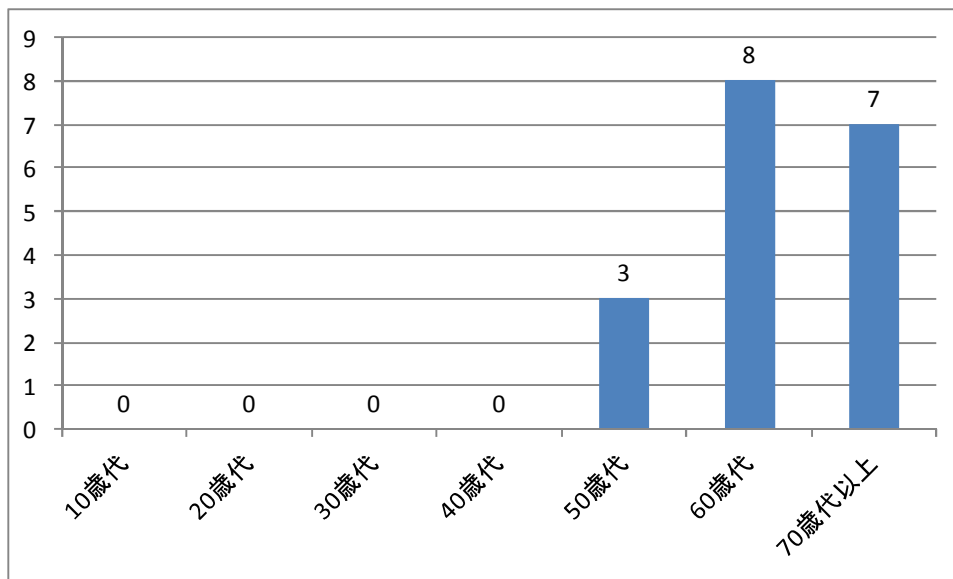
(何人で)



| 1人 | 2人 | 3人 | 4人 | 5人 | 6人 | 合計 |
|-------|-------|------|------|------|------|--------|
| 12 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 17 |
| 70.6% | 29.4% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 100.0% |

問10 参加者の年齢

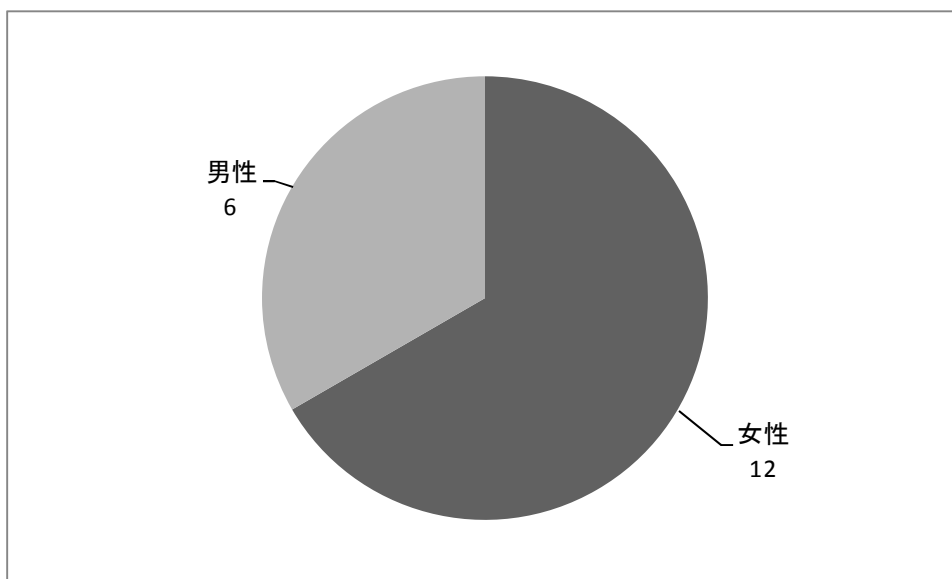
- ・参加者はすべて50歳代以上である。
- ・特に、60歳代、70歳代の割合が高く、あわせて83.3%となっている。



| 10歳代 | 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳代 | 70歳代以上 | 合計 |
|------|------|------|------|-------|-------|--------|--------|
| 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 8 | 7 | 18 |
| 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 16.7% | 44.4% | 38.9% | 100.0% |

問11 回答者の性別

- ・回答者の66.7%が女性であった。



| 女性 | 男性 | 合計 |
|-------|-------|--------|
| 12 | 6 | 18 |
| 66.7% | 33.3% | 100.0% |

(5) まとめ

①農ウォークイベントは参加者満足度が高い

- ・収穫体験や農家のお話といった内容が特に人気であった。
- ・リピート意向も高く、継続的な実施が求められる。

②農ウォーク参加者は高齢者が多く、多世代の参加が望まれる

- ・参加者の多くが一人、あるいはご夫婦での参加である。多世代が楽しめるイベント内容とすることにより、子どもや孫など多世代での参加が期待できるのではないかと。
- ・今後参加してみたいイベントとして、料理教室も多く上げられていることから、「食育」といった視点で、収穫から料理までを体験できるイベントも考えられる。

③PR 媒体の拡大

- ・参加者の多くが広報で農ウォークイベントを知っており、他媒体での PR を積極的に行うこと必要だと考えられる。
- ・特に、立川観光の軸として農ウォークを位置付けるのであれば、市内だけでなく、市外・都外人でも情報が得やすいよう、工夫が必要である。

第3節 農のあるまちづくりシンポジウム参加者へのアンケート

(1) 調査目的

「農」をテーマとした拠点施設であるファーマーズセンターみののれ立川のまちづくりへの活用方策や、市民の都市農地や緑空間への意識向上を目指し、「農のあるまちづくりシンポジウム」を実施した。

シンポジウム参加者へのアンケート調査を通じて、ファーマーズセンターみののれに期待する役割やまちづくりへの活用方策を探る。

(2) 調査対象・期間・回収状況

①調査対象

農のあるまちづくりシンポジウム参加者

②期間・回収状況

アンケートを実施した日程ごとの回収数は以下の通りである。

| 日程 | 回収数 |
|----------------------------|-----|
| 平成26年2月22日(土) シンポジウム終了時 | 37票 |

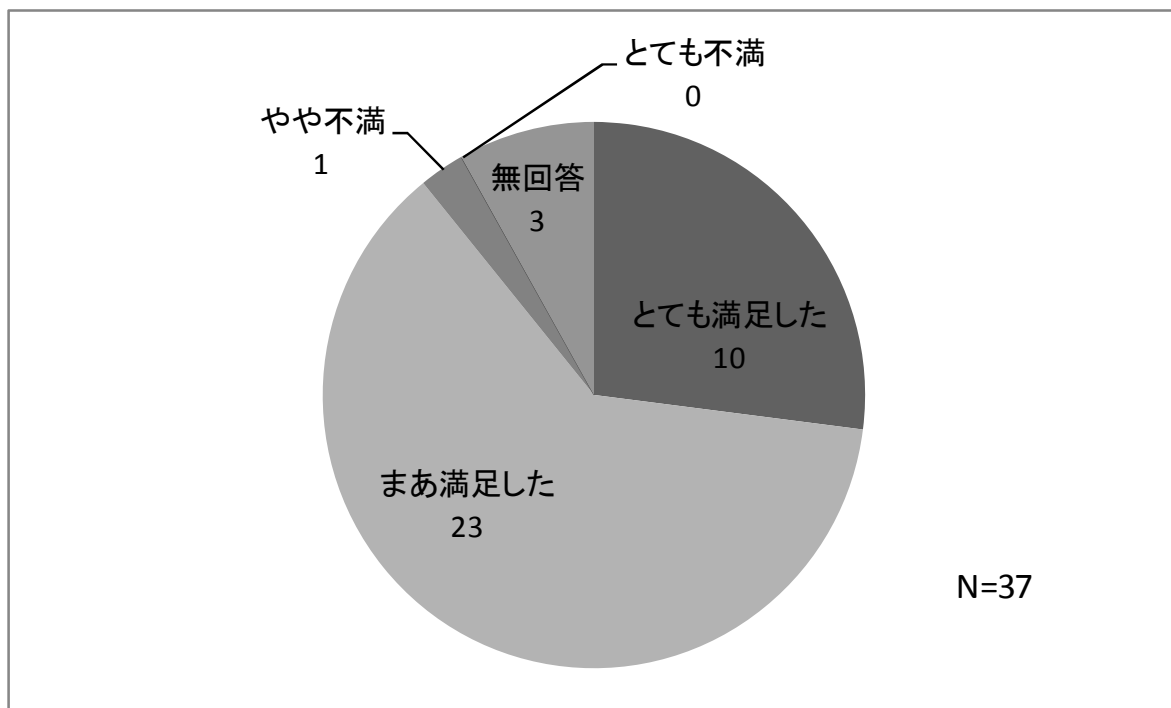
(3) 設問内容

- 問1 シンポジウムの満足度
- 問2 講演の理解度
- 問3 パネルディスカッションの理解度
- 問4 みののれ立川に期待すること
- 問5 みののれ立川が観光拠点となるために充実すべきもの
- 問6 みののれ立川のオープンスペースの活用方策
- 問7 みののれ立川と周辺施設の連携方策(記述式)
- 問8 市民と協働したみののれ立川の可能性
- 問9 参加者の属性
- 問10 年齢階層
- 問11 性別

(4) 集計結果

問1 本日のイベントに参加していかがでしたか。

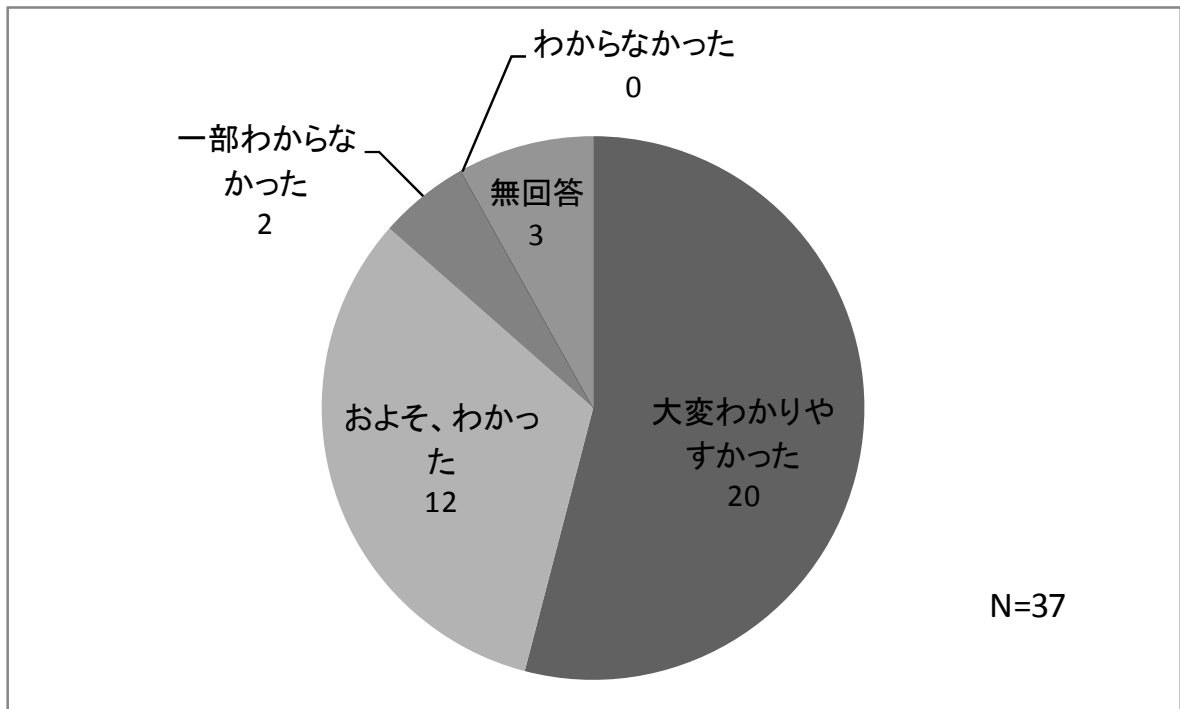
- ・シンポジウムの満足度は、「満足」、「まあ満足」あわせて 89.2%と、おおむね参加者は満足している。



| | | |
|---------|----|--------|
| とても満足した | 10 | 27.0% |
| まあ満足した | 23 | 62.2% |
| やや不満 | 1 | 2.7% |
| とても不満 | 0 | 0.0% |
| 無回答 | 3 | 8.1% |
| 合計 | 37 | 100.0% |

問2 講演の内容はいかがでしたか。

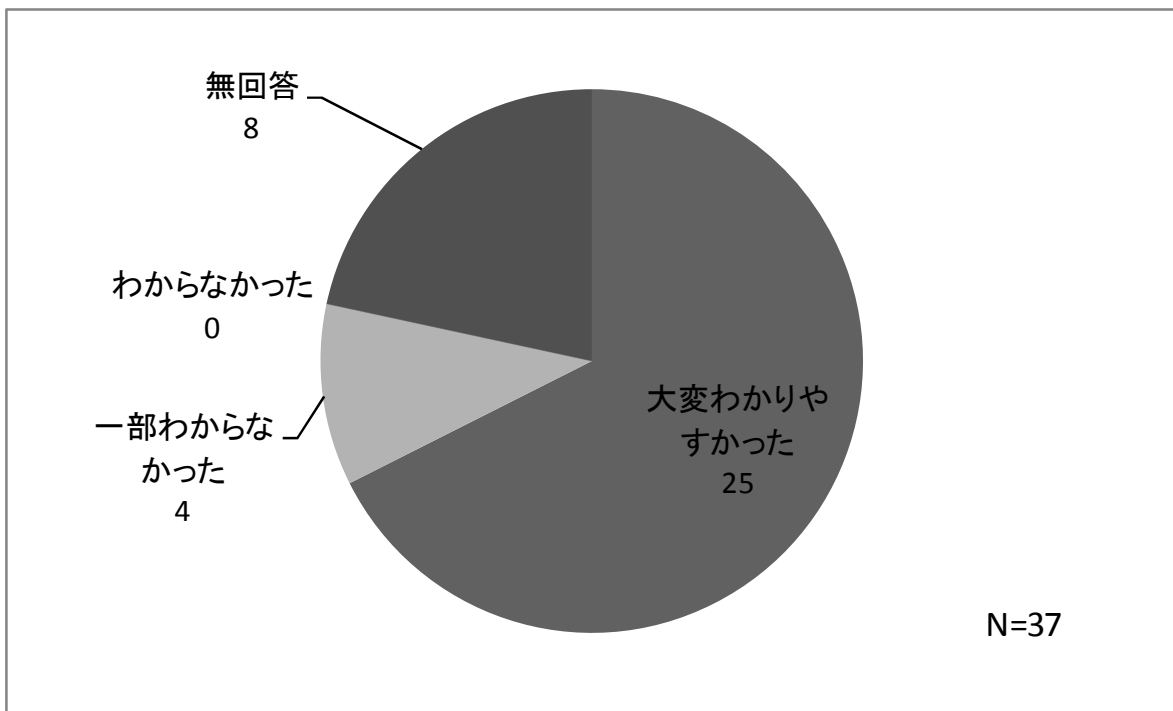
- ・講演の内容は、「大変わかりやすかった」、「およそ、わかった」あわせて 86.5%と、おおむねねわかりやすかったと言える。



| | | |
|------------|----|--------|
| 大変わかりやすかった | 20 | 54.1% |
| およそ、わかった | 12 | 32.4% |
| 一部わからなかった | 2 | 5.4% |
| わからなかった | 0 | 0.0% |
| 無回答 | 3 | 8.1% |
| 合計 | 37 | 100.0% |

問3 パネルディスカッションの内容はいかがでしたか。

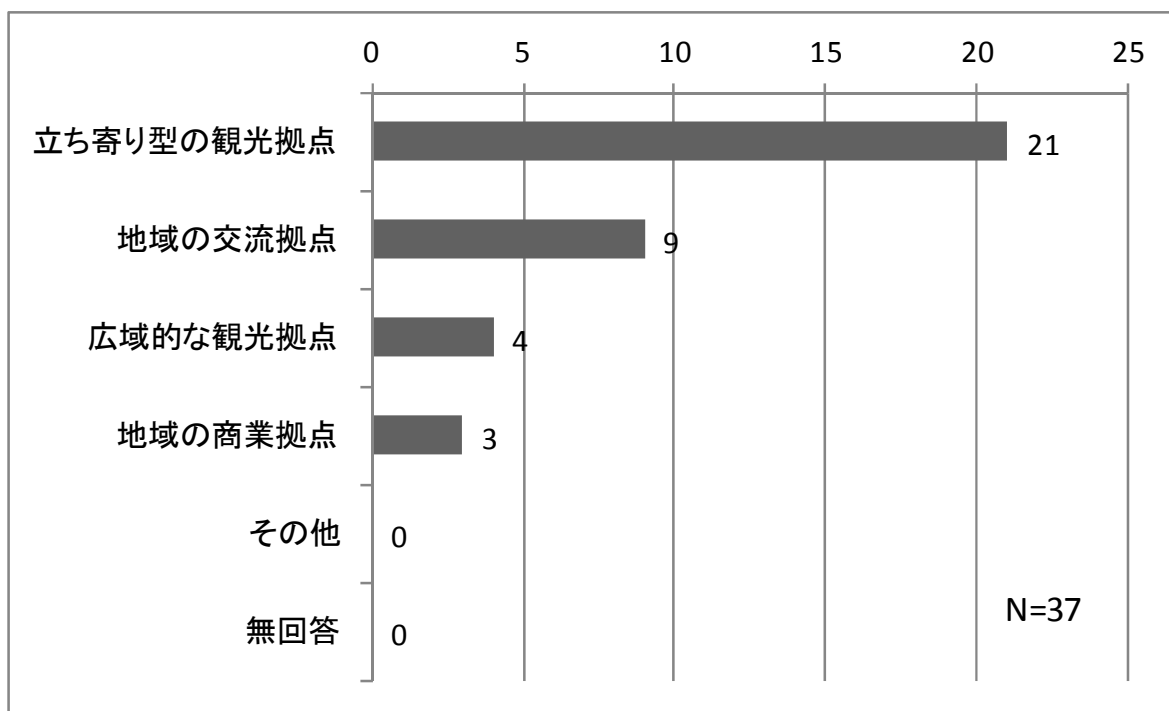
・パネルディスカッションに対する満足度は、「大変わかりやすかった」、「一部わからなかった」あわせて 78.4%と、おおむねわかりやすかった内容と言える。



| | | |
|------------|----|--------|
| 大変わかりやすかった | 25 | 67.6% |
| 一部わからなかった | 4 | 10.8% |
| わからなかった | 0 | 0.0% |
| 無回答 | 8 | 21.6% |
| 合計 | 37 | 100.0% |

問4 ファーマーズセンターみのーれ立川に期待することは何ですか。

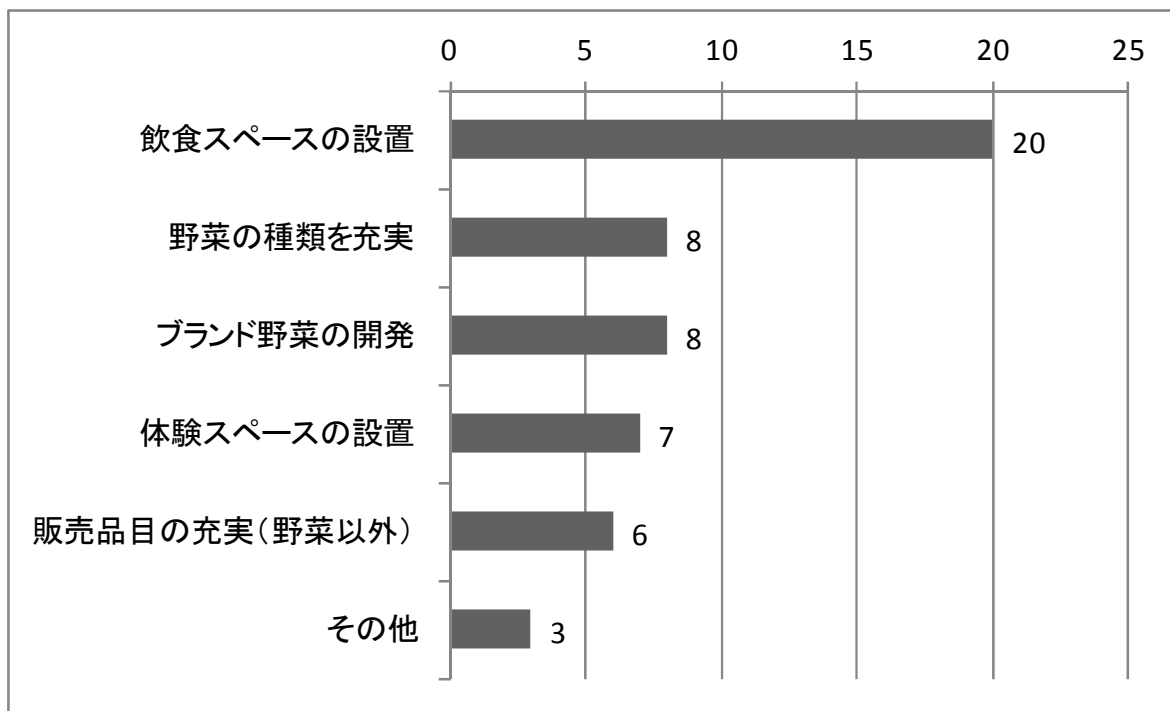
- ・ファーマーズセンターみのーれ立川に対し、道の駅のような「立ち寄り型の観光拠点」を期待する回答が半数以上の56.8%であった。
- ・次いで、「地域の交流拠点」を期待する回答が24.3%であった。



| | | |
|------------|----|--------|
| 立ち寄り型の観光拠点 | 21 | 56.8% |
| 地域の交流拠点 | 9 | 24.3% |
| 広域的な観光拠点 | 4 | 10.8% |
| 地域の商業拠点 | 3 | 8.1% |
| その他 | 0 | 0.0% |
| 無回答 | 0 | 0.0% |
| 合計 | 37 | 100.0% |

問5 ファーマーズセンター みの一れ立川が観光拠点となるために充実すべきものはなんですか。

- ・みの一れ立川に充実すべきものとして、「飲食スペースの設置」が38.5%と最も多い。
- ・次いで、「野菜の種類を充実」「ブランド野菜の開発」が15.4%と野菜の種類に関するものが多い。
- ・その他として、地産食品を食べれる飲食店や、地産地消の農産物を特色を付けて売り出す戦略性といったソフトに関するご意見も見られる。

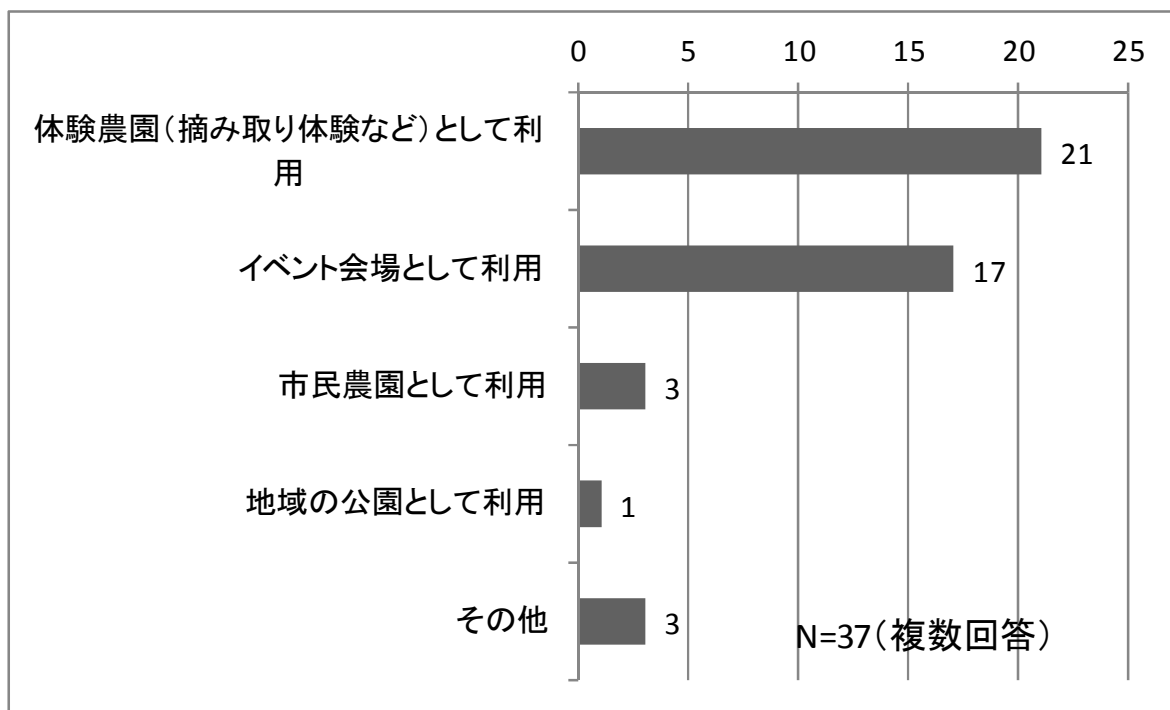


| その他の回答 | |
|-------------------------------------------------------|--|
| 愛知県大府市のJA「げんきの郷」のような、地産地消の農産物を特色を付けて売り出す戦略性、コーディネート力。 | |
| 北側スペースに地産食品レストランとか。 | |
| 野菜バイキングを希望。その場で野菜をもりもり食べられるスペースが欲しい。ドレッシングも豊富に。 | |

| | | |
|---------------|----|--------|
| 飲食スペースの設置 | 20 | 38.5% |
| 野菜の種類を充実 | 8 | 15.4% |
| ブランド野菜の開発 | 8 | 15.4% |
| 体験スペースの設置 | 7 | 13.5% |
| 販売品目の充実(野菜以外) | 6 | 11.5% |
| その他 | 3 | 5.8% |
| 合計 | 52 | 100.0% |

問6 ファーマーズセンターみのれ立川のオープンスペース（北側広場）はどのように活用すると良いですか。

- ・みのれ立川のオープンスペースの活用方策として、「体験農園として利用」が46.7%と最も多い。
- ・次いで、「イベント会場として利用」が37.8%と多い。



| その他の回答 | |
|------------------------|--|
| バーベキュー所。 | |
| 週一で屋台や大道芸人にきてもらっての客寄せ。 | |
| 北側スペースに地産食品レストランとか。 | |

| | | |
|---------------------|----|--------|
| 体験農園(摘み取り体験など)として利用 | 21 | 46.7% |
| イベント会場として利用 | 17 | 37.8% |
| 市民農園として利用 | 3 | 6.7% |
| 地域の公園として利用 | 1 | 2.2% |
| その他 | 3 | 6.7% |
| 合計 | 45 | 100.0% |

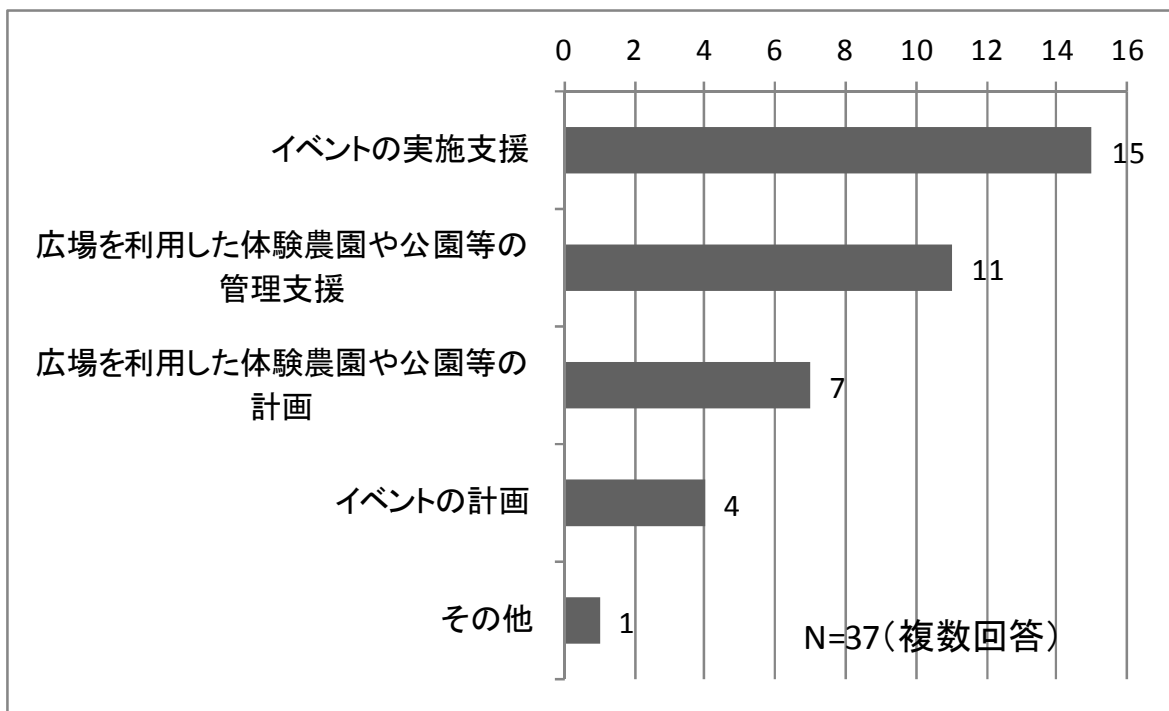
問7 ファーマーズセンターみのーれ立川はどのように周囲の施設と連携するとよいか
(アイディアを自由にお書きください)

- ・みのーれ立川と周辺施設との連携については、国営昭和記念公園との連携という趣旨の回答が複数見られる。
- ・また周辺施設や直売所同士が連携したポイントサービスに関するご意見のほか、観光協会との連携といったご意見もあった。

| ご意見 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| みのーれ南側にある給食センターとの連携(タイアップ) 給食センターへの納入は、一部生産者に限っているが、荷が多い時にはそれらをセンターへ納入させてもらう。または、センターを使って、野菜・果物の加工はできないものか？ |
| 昭和記念公園、飲食業界 |
| ポイントを付けるようにして、立川の直売所や五市の直売所にも使えるポイントや農協の経済課にも共通で使えるポイントにして欲しい。 |
| 昭和記念公園との連携の話はとても良かったと思います。(レストランの野菜使用について) |
| 昭和記念公園 |
| 国営昭和記念公園とのコミュニケーションを図る |
| ・記念公園との連携 ・宅配できるための拠点にしたい |
| 昭和記念公園 |
| 他施設との連携インセンティブの設定(割引券、スタンプ帳による周辺施設利用券付きプレゼント等) |
| まずはPR |
| 観光協会等と協力して、観光バスの休憩所として利用してもらう |
| 街で果物のキャッチセールスに合うことがある。購入してあげたい気持ちはあるが、身元、出所が不明だと買えない。「みのーれ」の関係者、商品だと認識できる何かがあれば、購入も考えたい。 例:みのーれ出張所、みのーれカー、みのーれ手売り他 |

問8 立川市民は、ファーマーズセンターみののれ立川に対し、お客様として以外にどのような関わり方ができそうか。

- ・みののれ立川に対する市民参画については、「イベントの実施支援」が 39.5%と最も多く、次いで「広場を利用した体験農園や公園等の管理支援」が 28.9%と多い。
- ・その他のご意見としても、イベント支援に関する内容であった。

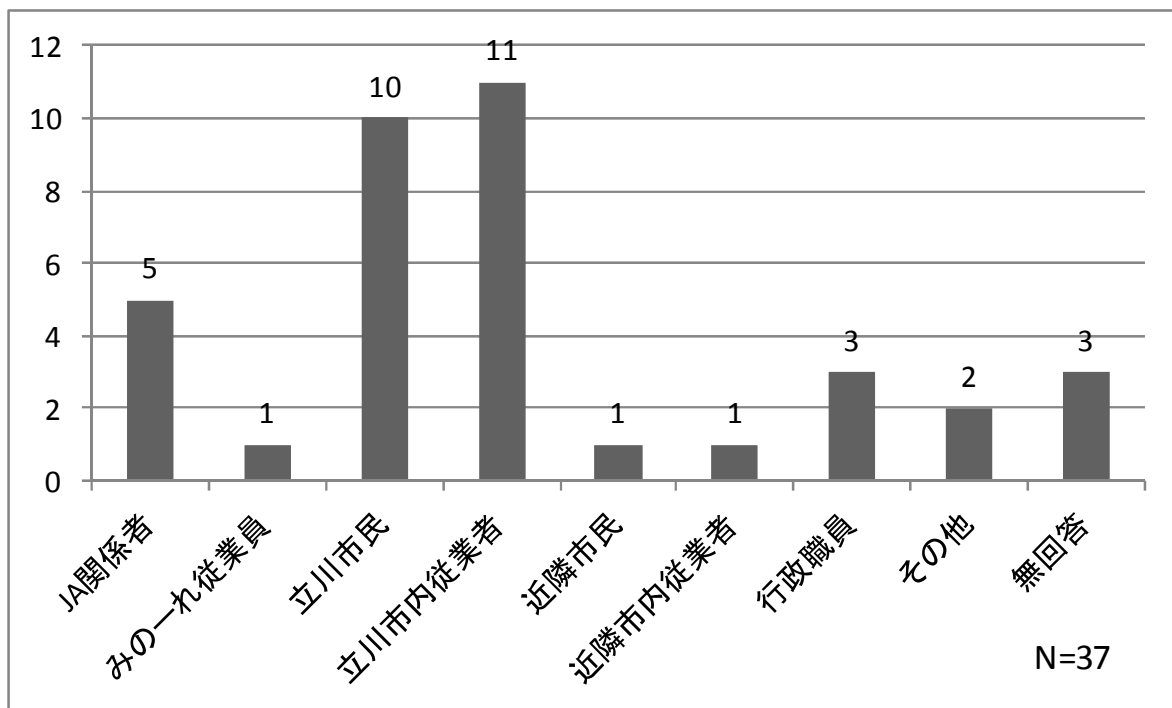


| その他の回答 | |
|----------------|--|
| イベント告知、その他の紹介。 | |

| | | |
|----------------------|----|--------|
| イベントの実施支援 | 15 | 39.5% |
| 広場を利用した体験農園や公園等の管理支援 | 11 | 28.9% |
| 広場を利用した体験農園や公園等の計画 | 7 | 18.4% |
| イベントの計画 | 4 | 10.5% |
| その他 | 1 | 2.6% |
| 合計 | 38 | 100.0% |

問9 回答者の所属

- ・回答者の属性を見ると、「立川市内従業者」が29.7%と最も多く、次いで「立川市民」が27.0%と多い。

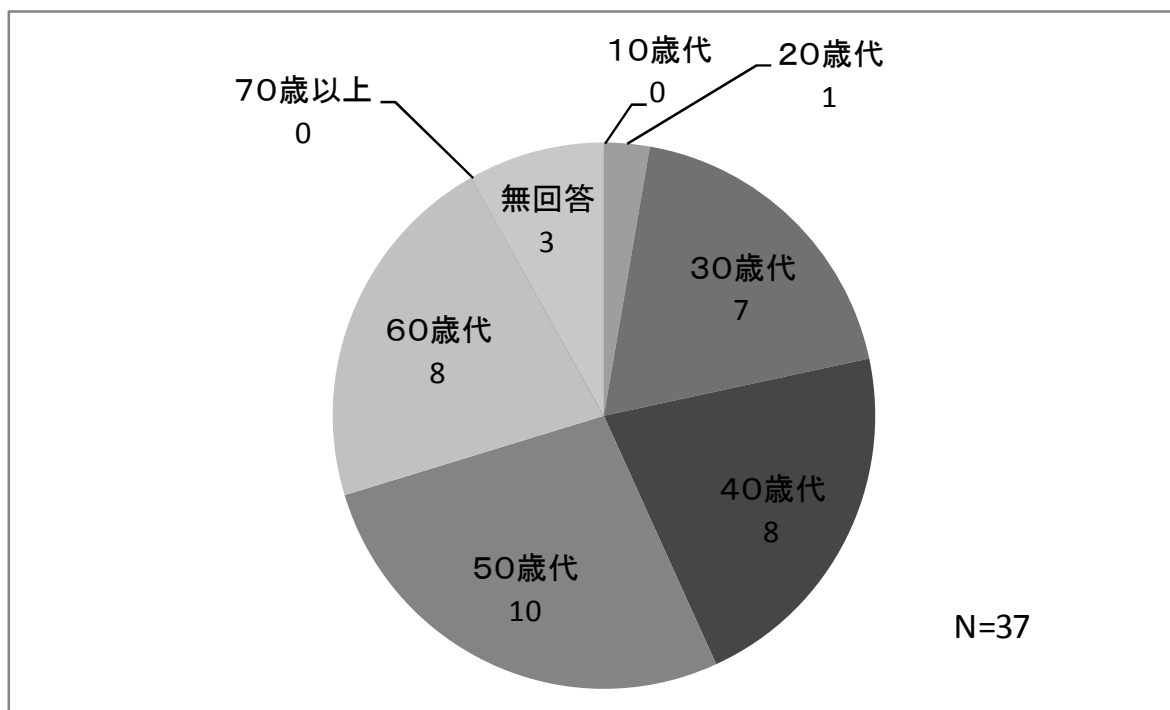


その他：市内生産者、昭和記念公園勤務

| | | |
|---------|----|--------|
| JA関係者 | 5 | 13.5% |
| みの一れ従業員 | 1 | 2.7% |
| 立川市民 | 10 | 27.0% |
| 立川市内従業者 | 11 | 29.7% |
| 近隣市民 | 1 | 2.7% |
| 近隣市内従業者 | 1 | 2.7% |
| 行政職員 | 3 | 8.1% |
| その他 | 2 | 5.4% |
| 無回答 | 3 | 8.1% |
| 合計 | 37 | 100.0% |

問 10 回答者の年齢

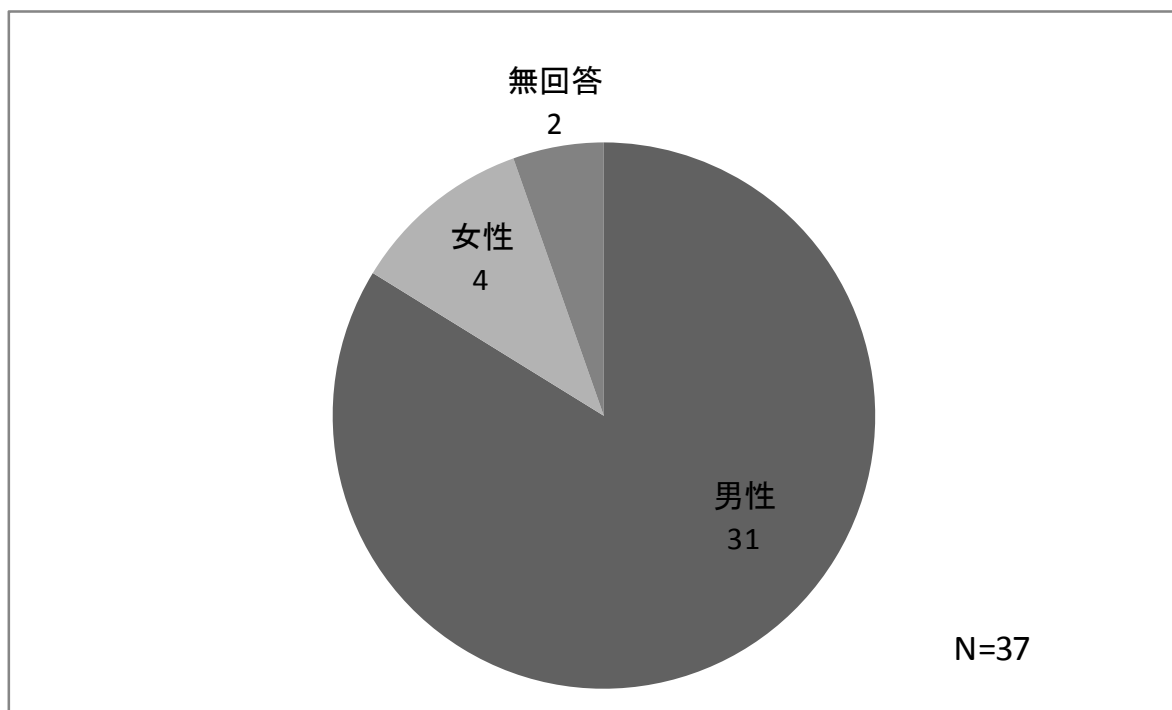
- ・回答者の年齢を見ると、30歳代 18.9%、40歳代 21.6%、50歳代 27.0%、60歳代 21.6%と、ほぼ同じ人数であった。



| | | |
|-------|----|--------|
| 10歳代 | 0 | 0.0% |
| 20歳代 | 1 | 2.7% |
| 30歳代 | 7 | 18.9% |
| 40歳代 | 8 | 21.6% |
| 50歳代 | 10 | 27.0% |
| 60歳代 | 8 | 21.6% |
| 70歳以上 | 0 | 0.0% |
| 無回答 | 3 | 8.1% |
| 合計 | 37 | 100.0% |

問 11 回答者の性別

- ・回答者の 83.8%が男性であった。



| | | |
|-----|----|--------|
| 男性 | 31 | 83.8% |
| 女性 | 4 | 10.8% |
| 無回答 | 2 | 5.4% |
| 合計 | 37 | 100.0% |

問 12 その他、意見や要望

| ご意見 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>「みの一れ立川」の店長にお願いが集中した様に思いますが、立川市や観光課がもっとお力を貸してくださる様、お願いします。業務自体が多すぎる上に、イベントや開発的な事には忙しくなかなかまわらない状態です。よろしくお願いします。</p> |
| <p>みの一れを大々的に PR すべき。</p> |
| <p>みの一れには、そこで販売されている野菜・果物を使った食事施設があれば、複合的な施設になると思う。また、調理施設と北側空き地を使った体験農園との連携も期待できる。作って収穫した野菜をそこで調理して食事するという流れ。</p> |
| <p>農家、JA、パートさんとの交流（会議等）、飲み会</p> |
| <p>みの一れ立川は、近代的な建物に大きな興味を持ちました。そういう建物だからこそ、地域に発信することはたくさんあり、工夫次第でどんどん伸びると思います。 立川といったら“うどん！”と言われる知名度を目指して、加工品、体験を取りこみ、お客様がカラダで体験できて記憶に残るサービス、時間を提供できたら良いと思います。</p> |
| <p>人が来ないことには話にならないので、お客様予備軍をつくる意味で、週一でお祭り騒ぎとか、昭和記念公園で花火大会があれば解放して、ゆでた枝豆の販売、トウモロコシの販売をしたら良いと思う。</p> |
| <p>もっと生産者一人ひとりがわかる顔写真や一言コメント etc があれば良いと思う。イベントも良いと思います。</p> |
| <p>北側のイベント会場が開いていてもったいないとの意見がありましたが、その通りだと思います。週 1 回でもフリーマーケットをやるとか、人の集まる場を作ることが大事だと思います。</p> |
| <p>年 2～3 回の情報を生産者に伝えることを期待する。 例：イベント後の結果をお知らせする</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・飲食ができるようにすると良い。 ・ラーメン、うどん、焼きそば、アイスクリーム、焼鳥、ピザ、その他 ・早く立川の焦点の方を入れる。 ・生鮮 3 品を置く。 |
| <p>この企画を「みの一れ立川」で行えば良かったのでは？ JA 商品（種、土、肥料他）ポット等も置いてほしい。</p> |
| <p>広場の利用にトイレの使用ができると、もっとイベントなども多くなり、みの一れに来る人も増えると思います。 みの一れの中で食べられる（アイスなど）座って食べる場所があると良い。 車以外でも行けるアクセスを市でもバスなどを考えてもらいたい。</p> |

(5) まとめ

①シンポジウムの満足度は高い

- ・講演やパネルディスカッションはわかりやすい内容だったことから、好評であった。

②みの一れ立川は立ち寄り型の「道の駅」のような機能が期待されている

- ・立川の特産品の発信や、観光客の立ち寄りなど、いわば「道の駅」のような機能を入れていくことが期待されている。
- ・飲食スペースの設置に対する期待も大きい。

③オープンスペースは収穫体験と週一イベント

- ・みの一れ立川敷地内北側のオープンスペースでは、立川野菜の収穫体験が望まれる。これは上記②の「道の駅」に期待するところにつながる。
- ・また、フリーマーケットや大道芸のような、みの一れ立川の存在を PR するイベントを定期的で開催する場としても期待されている。

④イベントの運営支援や公園の管理支援の市民参加を検討

- ・みの一れ立川敷地内北側のオープンスペースでイベントを実施する際には、市民と協働のもと、イベント支援や広場の管理などの面で市民に参画してもらうことも考えられる。

⑤みの一れ立川と国営昭和記念公園の連携

- ・パネルディスカッションの内容にもあるように、国営昭和記念公園との連携事業を推進していくことが望まれる。パネリストの提案にもあったように、公園内のレストランと提携し、地元野菜を使ったメニューを取り入れてもらうことや、公園内での出店などが考えられる。

【終章】

調査結果と今後の課題・展望

(1) 農のあるまちづくりにおける拠点施設の問題点

ファーマーズセンターみのーれ立川利用者インタビューや、農のあるまちづくりシンポジウムの内容、及び参加者アンケートの結果から、ファーマーズセンターみのーれ立川やまちづくりへの効果、市民の都市農地等の理解醸成に対する普及啓発方策についての問題点を整理すると以下のとおりである。

①品ぞろえに関する問題点

- ・新鮮野菜の販売店としては満足度が高いが、立ち寄り型の施設を期待して来る人にとっては、品ぞろえ面で物足りない状態であり、リピーターとして来るのは、近隣の住民が多い。現状では地域型商業施設の正確が色濃く、都市型観光の拠点とはなっていない。
- ・地域の農地で採れた季節の野菜を売る性質上、どうしても野菜の種類に偏りが生じている。また、午後の時間帯になると品数が悪くなるなど、入荷面でも問題がある。

②まちづくりへの効果に関する問題点

- ・国営昭和記念公園に隣接する立地でありながら、みのーれ立川まで回遊している公園利用者は少ない。
- ・現在のみのもーれ立川は、買い物目的で来る人がほとんどであり、周辺施設との回遊拠点としては利用されていない。

④北側のオープンスペースに関する問題点

- ・北側のオープンスペースは、現状では活用されていない状況である。アンケートではイベントの実施、体験農園などに対する期待が上がっている。

⑤拠点施設のPRに関する問題点

- ・みのーれ立川の存在を広くPRするための手法として、現在チラシや立川駅での看板などを行っているが、利用者アンケートでは通りがかりで気付く人が多く、PRが十分とは言えない状況である。
- ・またPRについては、回遊やイベント実施、商品開発等とも密接に関連するものと考えられ、様々な主体が連携して取り組むことが望まれる。

⑥市民の都市農地等の理解醸成に対する効果的な普及啓発方策に関する問題点

- ・アンケート結果から市民が地場農業に最も求めることが新鮮で安全な農産物の供給であることから、立川産農産物の新鮮さ及び安全性をPRする機会を増やすことで、それらを産出する農地の重要性を訴えることが効果的であると言える。
- ・市民の農業への関心として最も高いものが収穫体験であったことから、今後は収穫体験等ができる場所に積極的に市民を呼び込み、都市農地に触れる機会を創出することが必要である。

(2) 農のあるまちづくりにおける拠点施設等の課題と今後の展開

拠点施設やまちづくりへの効果、市民の都市農地等の理解醸成に対する普及啓発方策に関する問題点を踏まえ、課題と今後の展望を整理すると以下の通りである。

①ファーマーズセンターみの一れ立川の施設が目指す方向の確立・共有化

- ・今後、みの一れ立川が地域型の商業施設だけではなく、都市型観光の拠点ともなる施設として運営していくためには、その方向性を確立することが必要である。
- ・また、みの一れ立川が目指す方向性に向けて、施設整備や商品開発、施設運営をおこなっていくことから、行政、市民、事業者、農業関係者、みの一れ関係者など、あらゆる主体同士でその方向性を共有することが必要である。

| 今後の展望 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none">・立川産の農産品及びその加工品を扱う、立ち寄り型の施設としていくことが考えられる。・行政、みの一れ関係者、農業関係者などからなる、今後のみの一れ立川の方向性やPR、周辺施設との連携など、諸課題について実質的な議論を行う、(仮称)みの一れ立川運営協議会等の立ち上げ・運営。 |

②取り扱う商品の開発・充実

- ・現在のみの一れ立川で扱っている新鮮な地元野菜は利用者にも好評であり、引き続き新鮮で安全な地元野菜をあつかうことが望まれる。
- ・一方で、多様な種類の農産物や加工品に対するニーズも多いことから、立川産の農産物を活かした商品開発が望まれる。
- ・また、時間帯によって品薄な状況にならない工夫が必要である。

| 今後の展望 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none">・みの一れ立川と提携する農家の拡大。・立川産の農産物を活用した加工品の開発。・立川産のブランド野菜の開発。・店内の売れ行き状況によって、農家が追加で納品できるような取り組み。 |

③周辺施設との連携等まちづくり方策の検討及び実施

- ・みの一れ立川が都市型観光の拠点として活かされるために、上記①で示したように、みの一れ立川が立ち寄り型の施設として展開することが必要である。
- ・あわせて、上記②で示したように、立川産の農産物や加工品の開発・充実した上で、周辺施設のレストランとの提携、施設内でのワゴン販売などの取り組みが望まれる。
- ・周辺施設との連携方策については、上記①で示した（仮称）みの一れ立川運営協議会で、検討・実施を行うことが望ましい。
- ・農のあるまちづくりシンポジウムの結果から、まずは国営昭和記念公園との連携を目指す。

今後の展望

- ・国営昭和記念公園内のレストランへの商品提携。
- ・国営昭和記念公園内での（仮称）みの一れワゴンの展開。
- ・その他、周辺施設における連携の模索。

④市民に対する都市農地等の効果的な普及啓発方策の検討及び実施

- ・みの一れ立川が都市型観光の拠点として活かされるために、その存在や魅力を広く PR する必要がある。
- ・PR の方策としては、現在のチラシは利用者インタビューにおいても好評であったため引き続き行うことが望まれるとともに、インターネットやスマートフォンを活用した多世代に向けた PR 手法の展開が望まれる。
- ・あわせて、北側オープンスペースを利用して、フリーマーケットや食育体験等のイベントを定期的の実施するなどが考えられる。
- ・PR やイベント実施、北側オープンスペースの利用等については、上記①で示した（仮称）みの一れ立川運営協議会で、検討・実施を行うことが望ましい。

今後の展望

- ・インターネットやスマートフォンに対応したチラシの作成。
- ・北側オープンスペースにおけるイベントの検討・実施。
- ・メディア、周辺施設等と連携した PR 方策の検討。

⑤市民と協働する体制づくり

- ・みの一れ立川で今後展開することが考えられるイベント等の実施には、みの一れ立川だけでなく、行政や農業関係者、市民との協働が欠かせない。そのため、市民がイベントの計画や運営、北側オープンスペースの維持管理等に参画できる仕組みづくりが必要である。
- ・また、広場で開催するイベントの企画・運営面においても市民の参画が考えられる。そのため体制づくりが望まれる。

今後の展望

- ・市民ワークショップによる北側オープンスペース活用計画づくり。
- ・市民が広場の管理・運営や、イベントの企画・運営に参画できる体制づくり。

概要資料

| | |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 調査名 | 「農」をテーマにした都市型観光資源と連携したまちづくり特性分析調査 |
| 団体名 | 東京都立川市 |
| 背景・目的 | <p>■地域の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口：178,127人（平成25年4月1日現在）、面積：24.38km² ・農家数：388戸、耕地面積：339ha、農業従事者711人 <p>立川市は多摩の中心部分にあり、JR立川駅周辺は商業や業務機能が集まり、市域の中央部分には旧立川基地跡地の開発により、国営昭和記念公園や広域防災基地、自治大学校等の施設が集積しているほか、国の省庁移転による拠点整備も進められている。一方、市域の北部は都市農業や武蔵野の雑木林など緑豊かな地域を形成している。</p> <p>■背景・目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立川市は、平成25年5月に市内農産物や特産品の提供、立川情報の発信や市民交流の場などおの複合機能をもった「ファーマーズセンター みのーれ立川」を開設した。本施設を軸に、都市型観光資源である昭和記念公園をはじめとする周辺施設と連携して利用者の回遊動態等を調査・分析するとともに、市民が主体的に参加・参画する体験イベント等の開催を通じて、本国有地敷地の土地利活用策を検証・分析し、農地・緑地の保全推進とあわせた周辺まちづくりを展望する。 |
| 調査内容 | <p>(1)「農」をテーマとした回遊化方策調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回遊動態インタビュー調査の実施及び回遊化方策の抽出 <p>目的：みのーれ立川利用者へのアンケートから来街者の回遊方策を具体的に抽出する。 対象者：ファーマーズセンターみのーれ立川利用者 304名 調査項目：属性・回遊行動・消費行動・利用頻度・情報入手ルート・都市農業への理解度・農業体験への参加意向等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農・緑の周知・啓発リーフレットの作成 <p>ファーマーズセンターみのーれ立川の施設案内を兼ねた農・緑の周知・啓発リーフレットを企画・作成し、国営昭和記念公園をはじめとする周辺施設に配備し、来街者にも広く配布する。 製作部数：10万部</p> <p>(2)「農」をテーマとした市民全体の学習機会の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウム（講演会・パネルディスカッション）の開催 <p>目的：「農」をテーマとした拠点施設であるファーマーズセンターみのーれ立川のまちづくりへの活用方策を検討するとともに、市民の都市農地や緑空間への意識向上を図る。 実施日：平成26年2月22日（土） 内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ■第一部：講演「農のあるまちづくり資源としてのファーマーズセンターみのーれ立川」 <ul style="list-style-type: none"> <講師> 青木 隆夫（有）ベネット代表取締役・全国直売所連絡会事務局長 <講演内容> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりにおける農産物直売所の役割 （地産地消の推進、地域ブランドの創出育成、生産者と市民の交流拠点等…） ・オープンスペース（北側広場）等の利活用について （畑の設置、農関連イベントの開催等…） ■第二部：パネルディスカッション |

| | |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <p>「みのーれ立川にできること～まちづくりにおける役割とその利活用～」 <コーディネーター> 青木 隆夫 (有) ベネット代表取締役・全国直売所連絡会事務局長 <パネリスト> 金子波留之 みのーれ立川運営委員会 会長 (生産者) 桂 誠 みのーれ立川店長 (東京みどり農業協同組合) 岩崎太郎 立川観光協会副会長 (産業界) 富所弘充 国営昭和記念公園事務所 調査・品質確保課長 (国) 新海きよみ 立川市産業文化部長 (市)</p> <p>参加者数：100名程度</p> <p>・体験イベントの実施</p> <p>① 農ウォーク</p> <p>目的：市内農地と観光スポットを巡るウォーキングイベントを開催し、農家の話や農業体験、観光ボランティアからのガイドを受けて新たな立川の魅力を広くPRする。</p> <p>実施日：平成25年11月17日(日)</p> <p>内容：ファーマーズセンターみのーれ立川案内、フルーツの収穫体験、玉川上水散策、国営昭和記念公園こもれびの里見学など</p> <p>参加者数：25名</p> <p>・ワークショップの実施</p> <p>目的：みのーれ立川のまちづくり資源としての利活用を検討する</p> <p>実施日：①平成26年2月27日(木) ②平成26年3月6日(木)</p> <p>内容：SWOT分析法によるみのーれ立川の利活用方法の検討</p> <p>参加者：青木隆夫 ((有)ベネット代表取締役・全国直売所研究会事務局長) 金子波留之 (生産者・みのーれ立川運営委員会会長) 桂 誠 (JA東京みどり・みのーれ立川店長) 上原 恵子 (消費者) 磯部 淳 (国営昭和記念公園管理センター)</p> |
| 調査結果 | <p>ファーマーズセンターみのーれ立川の周辺には国営昭和記念公園をはじめ、玉川上水や圃場等の農地や緑に関連するスポットが多く点在する。中でもみのーれ立川利用者に対するアンケートでは、回答者の9割以上が国営昭和記念公園の利用経験があるとのことから、農・緑というテーマで関連性の強い同施設と継続的な連携を図ることが農のあるまちづくりの形成に効果的であることが伺える。課題としては、アンケート回から収穫体験をはじめとする農業体験への関心が強いこと、みのーれ立川利用者の施設への不満として「買い物しかできないところ」という点が挙がっており、施設北側敷地を活かした体験農園等の機能整備が必要とされている点である。</p> |
| 今後の取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・国営昭和記念公園をはじめとする周辺施設との連携基盤整備 みのーれ立川と周辺施設の間で、農・緑のあるまちづくりを促進するための連携方策等を考え、実行する連携基盤を整備する。 ・みのーれ立川北側敷地における農業体験機能整備 みのーれ立川利用者や市民の強い農業体験への関心を受け、平成26年度より同施設北側敷地において農業体験施設を整備し、更なる農・緑の周知・啓発を図る。 |